

科目名	情報・統計処理（国際） Informatics/Statistical Processing	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	長谷川 旭	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	統計学の基本的な概念を学ぶとともに実際の運用の場面での使い方を学ぶ。具体的には基本統計量、記述統計・推測統計の違い、正規分布、検定等とその応用を学習する。統計の基礎について学び、演習を通じて、情報分析力と統計手法、データ活用の方法を身に着けることを目的とする。		
授業概要	最初に、表計算ソフトの利用法について学ぶ。次に、様々な情報を客観的に記述、解釈するための手段である統計の基礎について学び、その分析手順を修得する。次に、学んだ知識を使い、データ収集と収集したデータの分析を行う。実験的な演習・分析や、地域（岐阜）に関する実際のデータ（政府の公的統計など）の分析を通じて、学んだ知識の定着を行う。最後に、データサイエンスやAIに関する文献調査をし、プレゼンテーションによる発表を行い、お互いの発表を聞くことで、この分野に関する知識を深めるとともに、視野を広げる。 【SDGs：4, 9】 【岐阜学関連の授業回：⑪, ⑫, ⑬, ⑭, ⑮】		
授業計画	① ガイダンス、身近にある統計 ② 表計算ソフトの利用方法（関数など） ③ データビジュアライゼーション、データ分析ツール ④ 代表値とばらつき ⑤ クロス集計表、ヒストグラム ⑥ 四分位法、箱ひげ図 ⑦ 相関分析、回帰分析（1） ⑧ 相関分析、回帰分析（2） ⑨ 統計的仮説検定（1） ⑩ 統計的仮説検定（2） ⑪ 統計処理演習（1）データの収集と分析 ⑫ 統計処理演習（2）データの分析とまとめ ⑬ 統計処理演習（3）発表 ⑭ 統計処理演習（4）発表、データサイエンスとAIの関連 ⑮ 統計処理演習（5）発表、総括とまとめ		
予復習等	【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。 【復習】講義内容を復習しながら、授業中に指示する課題等に取り組むこと。		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	『Excelデータ分析の教科書』、日花弘子著、SBクリエイティブ株式会社出版		

科目名	日本文化論 Japanese Cultural Studies	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義では、日本人の精神文化の特徴を学ぶことで、我々の最も身近にあって一生付いて回る「心」の側面から日本人の特徴を客観的に理解することを目的とする。これによって自己評価を高め、自分に求められるものは何かを考えて自ら行動に移してみることで、日常生活や社会生活のなかで抱える悩みや生きづらさに向き合い、ひとりひとりがよりよい生き方を模索する方法を見つけることを到達目標とする。同時に、自分を知ることで他者を理解し、よりよい人間関係の構築や視野拡大の契機を見つけることを到達目標とする。		
授業概要	【実務経験：なし】 日本人の精神文化を切り口に日本文化について考える。日本人のものの考え方の特徴を文化的側面から自覚することは、今後のよりよい生き方へとつながる作業である。具体的には、日本人の精神文化の代表的な特徴として「もののあはれ」「無常」「義理と人情」「粋」について、主に日本文学の立場から私たちの思考の型（癖）を認識する。「もののあはれ」では『源氏物語』、「無常」では主に『方丈記』および『徒然草』から、「義理と人情」では近松門左衛門の浄瑠璃作品、「粋」では九鬼周造『粋の構造』の考えを基本に近松作品を取り入れ、日本人の精神文化の魅力および改善点を考え、よりよい生き方を提案する。 【SDGs：4, 10】		
授業計画	① ガイダンス、日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（1） ② 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（2） ③ 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（3） ④ 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（4） ⑤ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（1） ⑥ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（2） ⑦ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（3） ⑧ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（4） ⑨ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（1） ⑩ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（2） ⑪ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（3） ⑫ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（4） ⑬ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（1） ⑭ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（2） ⑮ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（3） ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40%、授業時に書いてもらうメモ20%、定期試験40%		
履修条件	なし		
教科書	プリントを配布する		
参考書	必要に応じて配布プリント、映像教材を用いる		

科目名	中国文化論 Chinese Cultural Studies	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本授業は、中国文化を多角的な視点から理解し、現代社会に見られる文化的背景や価値観の相違を考察することを目的とする。特に、Z世代が関心を寄せるテーマを題材に日中比較を行い、異文化理解を深めるとともに、自らの視点を論理的に構築する力の育成を目指す。到達目標としては、第一に中国文化の特徴と日本文化との違いを説明できること、第二に最新の時事やトレンドを踏まえ、自分の意見を論理的に述べられること、そして第三に異文化理解を基盤に独自の視点を形成できることを掲げる。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：トヨタ自動車子会社技術職10年（海外赴任経験あり）、中国の水族館副館長5年、ベンチャー企業社外取締役4年。】 この授業では、中国文化を歴史的背景から現代のトレンドまで幅広く扱い、特にZ世代が関心を持つ分野（SNS文化、音楽、映画、ファッション、価値観の変化など）を中心に、最新ニュースや事例を紹介しながら日中の文化的差異を考察する。ディスカッションを重視し、学生が意見を発信できる場を設ける。また、本授業は中国人留学生が履修し、岐阜市立商業高校グローバルマネジメント系2年生との高大連携授業として実施する。授業を通して、互いの文化と価値観の違いに触れることができる。（本授業は隔週にて全8回開講する） 【SDGs：10, 16】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 中国のトレンド現象の一つ取り上げ、日中における文化的差異を解説 ② 学生から中国の関心テーマを収集し、選定 ③ これらのテーマを中心に、背景情報を提供し、学生がグループで議論、意見交換を行う ④ 背景説明+日中比較のポイント提示、グループディスカッション（視点整理） ⑤ ディスカッション結果の深化・補足講義 ⑥ グループ発表 ⑦ グループ発表 ⑧ グループ発表 		
予復習等	<p>【予習】日頃のニュースやトレンドに関心を持つこと。 【復習】疑問に感じたことを調べたり、teamsにて質問や意見交換などを行う。</p>		
評価方法	出席・受講状況50%、グループ発表50%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	なし（PowerPointを使用）		
参考書	なし		

科目名	韓国文化論 Korean Cultural Studies	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>朝鮮半島の歴史について理解することを目的とする。具体的には、学生が朝鮮半島の歴史の基礎的知識を習得し、朝鮮半島での歴史の変遷、各時代の特徴、各時代の王朝と中国大陆や日本との関係が説明できるようになることを目標とする。さらには、隣国の歴史を理解することが日本と朝鮮半島との関係について理解を深めることにつながることを期待される。</p>		
授業概要	<p>最初に朝鮮半島の地理の概要について学ぶ。次に、古代から近代まで朝鮮半島の各時代、各王朝の特徴を学ぶ。その際、中国大陆の各王朝や日本との関係を重視する。続いて、日本による植民統治とその後の南北朝鮮の分断について学ぶ。この授業は隔週で行なうので、授業が開講される日に注意すること。全8回の授業であり、回数の少ない授業なので、予習復習に努めることが授業の内容を理解するために大切である。 【SDGs：10, 16】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 地理 ② 古朝鮮と漢四郡 ③ 高句麗と三韓 ④ 統一新羅と渤海 ⑤ 高麗 ⑥ 朝鮮 ⑦ 大韓帝国と日韓併合 ⑧ 大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国 ⑨ 定期試験 		
予復習等	<p>配布されたプリントを整理し、次の時間に使用するプリントの内容を確認しておくこと。授業後はノート整理に努めること。</p>		
評価方法	レポート50%、定期試験50%		
履修条件	なし。プリントを配布する。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	『朝鮮を知る事典』／著・伊藤亜人ほか／出版：平凡社		

科目名	グローバリゼーション論 Globalization Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	藤田 怜史	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>本講義の目的は、グローバリゼーションが何を意味し、それによって世界がどう変わった（変わっている）かを理解することを目的とする。また、グローバルな視点を涵養し、それによって異文化への共感力を高めることを目的とする。具体的な到達目標は以下のとおり。</p> <p>1：受講生は、グローバリゼーションという現象の意味を理解できる。 2：受講生は、グローバリゼーションがもたらした好影響と悪影響を考察できる。 3：受講生は、グローバルな視点を身につけ、異文化への共感力を高めることができる。</p>		
授業概要	<p>グローバリゼーションとは、ヒト・モノ・カネが国境を越えてより自由に移動できるようになり、世界がひとつにつながりつつある現象を意味する。本講義では、世界がいかにつながっているかという問題を歴史的に振り返る。それに加えて、諸外国の状況について見ることで、世界はひとつにつながりつつも、多様性を内包していることを確認し、またグローバリゼーションがもたらしたさまざまな影響を検討する。最後に、日本や岐阜というローカルな地域の中に、「世界」がどう存在しているか、またその逆についても見てみたい。なお、本講義は受講生にプレゼン（個人ないしグループ。受講者の数による）を多く行ってもらおう。積極的な参加、意見交換を期待する。</p> <p>【SDGs：4, 5, 10, 11, 16, 17】 【岐阜学関連の授業回：⑫, ⑬, ⑭, ⑮】</p>		
授業計画	<p>① イントロダクション：グローバリゼーションってなに？ ② 世界はつながっている（1）：古代の世界の人・モノ・金の移動 ③ 世界はつながっている（2）：世界をめぐる食べ物 ④ グローバリゼーションの展開（1）：大航海時代 ⑤ グローバリゼーションの展開（2）：産業革命から第一次世界大戦 ⑥ グローバリゼーションの展開（3）：第二次世界大戦後の展開 ⑦ プレゼンⅠ：世界中をめぐるヒト・モノ・カネ（1） ⑧ プレゼンⅠ：世界中をめぐるヒト・モノ・カネ（2） ⑨ グローバリゼーションの諸問題（1）：人とモノの移動の活性化 ⑩ グローバリゼーションの諸問題（2）：文化の均質化と格差の拡大・固定化 ⑪ グローバリゼーションの諸問題（3）：反グローバリゼーションの現在 ⑫ 観光の動向：世界・日本・地域 ⑬ 日本における世界・世界における日本 ⑭ プレゼンⅡ：グローバル化の諸問題／岐阜を世界に発信・旅行計画（1） ⑮ プレゼンⅡ：グローバル化の諸問題／岐阜を世界に発信・旅行計画（2） ⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>予習：世界全体のニュースに関心を持ち、可能な限り触れておく。 復習：講義で扱った話題について自分で調査を行い、プレゼンの準備をする。</p>		
評価方法			
履修条件	なし。		
教科書	なし。資料を配布する。		
参考書	なし。適宜紹介する。		

科目名	サステイナブル社会論 Studies in Sustainable Societies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	荒木 隆人	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>「サステイナブル(sustainable)社会」とは、地球の環境、平和や公正が次の世代にも保たれ、継承されていくような社会を意味する。すなわち、それは、人類がこの地球上で暮らし続けていくために形成していかなければならない社会のことである。2015年には、国連総会において、このサステイナブルな社会を実現するための具体的な目標として、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）が提唱された。本授業の目的は、このSDGsの具体的な目標を学ぶことで、私たちが目指すべきサステイナブル社会についての理解を深めることである。</p>		
授業概要	<p>本講義では、持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)が掲げる17の目標と169のターゲットについて詳細に解説する。各回の講義において、SDGsが掲げる具体的な目標とターゲットの内容を理解することを通じて、現在の世界が目指すべきサステイナブル社会の全体像を明らかにする。</p> <p>【SDGs：1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス ② 目標1「貧困をなくそう」目標2「飢餓をゼロに」 ③ 目標3「すべての人に健康と福祉を」 ④ 目標4「質の高い教育をみんなに」 ⑤ 目標5「ジェンダー平等を実現しよう」 ⑥ 目標6「安全な水とトイレを世界中に」 ⑦ 目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」 ⑧ 目標8「働きがいも経済成長も」目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」 ⑨ 目標10「人や国の不平等をなくそう」 ⑩ 目標11「住み続けられるまちづくりを」目標12「つくる責任 つかう責任」 ⑪ 目標13「気候変動に具体的な対策を」 ⑫ 目標14「海の豊かさをまもろう」 ⑬ 目標15「陸の豊かさを守ろう」 ⑭ 目標16「平和と公正をすべての人に」 ⑮ 目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」 ⑯ まとめ</p>		
予復習等	<p>【予習】講義内で紹介する教科書等で各回の講義で扱う内容について予習をすること 【復習】講義で配布された資料を理解した上で、一層理解を深めるために参考書等で調べること</p>		
評価方法	小課題20%、期末レポート80%		
履修条件	なし		
教科書	『SDGs（持続可能な開発目標）』著・蟹江憲史／出版：中央公論新社 ISBN 978-4121026040		
参考書	講義中において適宜指示する。		

科目名	多文化共生社会論 Multicultural Society		単位数	2
			必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）【他学科専門科目】		科目区分	講義
担当者	孫 ミギョン		教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	総務省は多文化共生を「国籍や民族など異なる人々が、お互いの文化を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義している。本授業では、多文化社会・多文化共生をめぐる基本的な概念を理解したうえで、日本社会における多文化共生の現状や課題について事例を通じて分析・考察する。これらの学習を通じて、多文化共生社会のあり方を自分なりの視点で説明できるようになることを到達目標とする。			
授業概要	世界的に人の移動が活発化するなかで、移民・難民の数は増加し続けている。本授業では、多文化に関する基本的な概念を整理するとともに、世界各地および日本における多文化社会の現状について学ぶ。 また、外国人労働者を「労働力」としてだけでなく、生活者・地域住民として捉える視点に立ち、日本社会および地域社会における受け入れの現状や課題について考察する。これらの学習を通じて、日本における外国人差別問題や外国人労働者をめぐる諸課題、国際交流・国際化がもたらす影響について、多角的に理解することを目標とする。 【SDGs：3, 10, 11, 16】 【岐阜学関連の授業回：⑧, ⑨】			
授業計画	① ガイダンス ② 文化と多文化社会 ③ 多文化社会の理解：概念、世界化、移住など ④ アメリカにおける多文化共生 ⑤ ヨーロッパにおける多文化共生 ⑥ 日本における多文化共生 ⑦ 韓国における多文化共生 ⑧ 岐阜県の多文化共生と外国人 ⑨ 多文化社会と人権課題 ⑩ 多文化共生のまち：日本の事例 ⑪ 多文化共生のまち：韓国の事例 ⑫ グループ発表① ⑬ グループ発表② ⑭ グループ発表③ ⑮ まとめ ⑯ 定期試験			
予復習等	【予習】新聞やインターネットのニュースを通じて、外国人労働者、移民、多文化共生に関する話題に目を通し、授業で扱うテーマとの関連を意識しておくこと。 【復習】講義内容を振り返り、関心をもったテーマについて基礎的な情報を調べ、要点を整理すること。			
評価方法	【自科学生の場合】出席状況・授業態度20%、グループ発表30%、定期試験(レポート)50%(授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない) 【他科学生の場合】出席状況・授業態度50%、定期試験(レポート)50%(授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない)			
履修条件	なし			
教科書	なし			
参考書	適宜プリントを配布する			

科目名	多文化共生社会論 Multicultural Society		単位数	2
			必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）【他学科専門科目】		科目区分	講義
担当者	孫 ミギョン		教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	総務省は多文化共生を「国籍や民族など異なる人々が、お互いの文化を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義している。本授業では、多文化社会・多文化共生をめぐる基本的な概念を理解したうえで、日本社会における多文化共生の現状や課題について事例を通じて分析・考察する。これらの学習を通じて、多文化共生社会のあり方を自分なりの視点で説明できるようになることを到達目標とする。			
授業概要	世界的に人の移動が活発化するなかで、移民・難民の数は増加し続けている。本授業では、多文化に関する基本的な概念を整理するとともに、世界各地および日本における多文化社会の現状について学ぶ。 また、外国人労働者を「労働力」としてだけでなく、生活者・地域住民として捉える視点に立ち、日本社会および地域社会における受け入れの現状や課題について考察する。これらの学習を通じて、日本における外国人差別問題や外国人労働者をめぐる諸課題、国際交流・国際化がもたらす影響について、多角的に理解することを目標とする。 【SDGs：3, 10, 11, 16】 【岐阜学関連の授業回：⑧, ⑨】			
授業計画	① ガイダンス ② 文化と多文化社会 ③ 多文化社会の理解：概念、世界化、移住など ④ アメリカにおける多文化共生 ⑤ ヨーロッパにおける多文化共生 ⑥ 日本における多文化共生 ⑦ 韓国における多文化共生 ⑧ 岐阜県の多文化共生と外国人 ⑨ 多文化社会と人権課題 ⑩ 多文化共生のまち：日本の事例 ⑪ 多文化共生のまち：韓国の事例 ⑫ グループ発表① ⑬ グループ発表② ⑭ グループ発表③ ⑮ まとめ ⑯ 定期試験			
予復習等	【予習】新聞やインターネットのニュースを通じて、外国人労働者、移民、多文化共生に関する話題に目を通し、授業で扱うテーマとの関連を意識しておくこと。 【復習】講義内容を振り返り、関心をもったテーマについて基礎的な情報を調べ、要点を整理すること。			
評価方法	【自科学生の場合】出席状況・授業態度20%、グループ発表30%、定期試験(レポート)50%(授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない) 【他科学生の場合】出席状況・授業態度50%、定期試験(レポート)50%(授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない)			
履修条件	なし			
教科書	なし			
参考書	適宜プリントを配布する			

科目名	英語コミュニケーション I a English Communication Ia	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	This class will help students improve their English conversation skills. Clear training in how to speak English like a native speaker will be given. The aim is to help students understand the differences between Japanese and Western cultural speaking styles in order to communicate more effectively. With this knowledge, students will be able to use simple expressions to speak like native speakers of English.		
授業概要	Students will spend much time in class learning vocabulary and speaking with classmates about everyday life topics. Vocabulary quizzes will be given at the end of each unit. By the end of the course, if students work hard, they will be able to speak English more fluently, accurately, and with more complexity than they could at the beginning of the year. 【SDGs : 4, 17】 【岐阜学関連の授業回 : ④, ⑤】		
授業計画	① Unit 1 (Part 1): Three Golden Rules / Natural greetings ② Unit 1 (Part 2): Golden Rule #1 / Club activities ③ Unit 1 (Part 3): Implicit questions / Part-time jobs ④ Quiz / Unit 3 (Part 1): Hometown attractions ⑤ Unit 3 (Part 2): Hometown likes & dislikes ⑥ Unit 3 (Part 3): Where will you live in the future? ⑦ Quiz / Practice for speaking test ⑧ Speaking Test #1 ⑨ Unit 2 (Part 1): Daily routines ⑩ Unit 2 (Part 2): Hardest / easiest days of the week ⑪ Unit 2 (Part 3): Daily activities / Golden Rule #3 ⑫ Quiz / Unit 6 (Part 1): Music ⑬ Unit 6 (Part 2): Movies ⑭ Unit 6 (Part 3): TV, games, and social media ⑮ Quiz / Practice for speaking test ⑯ 定期試験 (Speaking Test #2)		
予復習等	【予習】 Study the textbook before coming to class each week. 【復習】 Review the lessons to better remember the material covered in class.		
評価方法	Participation (20%); Vocabulary quizzes & homework (30%); Speaking tests (50%)		
履修条件	Students need to have a desire and motivation to speak English.		
教科書	Conversations in Class (3E). Jerry Talandis Jr. and Bruno Vannieu. Alma Publishing, Kyoto, 2015.		
参考書			

科目名	英語コミュニケーション I b English Communication Ib	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	杉浦 エレナ	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	The objectives of this course are for students to develop practical communication skills for everyday English conversations. To this end the course will focus on building up confidence in English abilities through scaffolded listening and speaking activities. Students will also learn about American and British customs and culture in order to introduce a more international outlook.		
授業概要	【担当者の実務経験：日本の文化になじみのない英会話教師をサポートしてきた職務経験を活用し、コミュニケーションをとる中で日本と外国の文化的なギャップへの実際の経験に基づく対処法を身につけます。】 The course will review speaking activities familiar to the students such as introductions, family life and hobbies before introducing more challenging communication activities such as asking for information, telling a story and discussing problems. 【SDGs : 4】		
授業計画	① Orientation. Introduction and ice breaker activities. ② Class album. Simple information exchange. Polite, impolite questions. ③ Favorite photos. Describing family and friends. Follow up questions. ④ Personal goals. Describing future goals. Asking for advice. ⑤ Believe it or not. Telling a story. Reacting with interest. ⑥ Where I grew up. Using the past tense and `used to`. ⑦ Bargain shopper. Shopping expressions and bargaining for goods. ⑧ Review and mid term speaking assessment. ⑨ The perfect gift. Japanese, American and UK gift giving customs. ⑩ Party planner. Holidays in Japan, the US and the UK. Invitations. ⑪ Music profile. Likes, dislikes and genres of music. Reported speech. ⑫ Style makeover. Describing appearance and clothing. Giving advice. ⑬ Honesty. Telling stories. Asking hypothetical questions. ⑭ Making things better. School problems. Using `too` and `(not) enough`. ⑮ Review and speaking assessment. ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 Weekly vocabulary lists. 【復習】 Mid term and end of term speaking assessments.		
評価方法	Mid term speaking assessment 20%. End of term speaking assessment 20%. Participation 10%. End of term examination 50%.		
履修条件	なし		
教科書	Active Skills for Communication Book 1. HEINLE CENGAGE learning. Sandy, Kelly.		
参考書	なし		

科目名	英語コミュニケーションⅡ English Communication II	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	杉浦 エレナ	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	The objectives of this course are for students to develop practical communication skills for everyday English conversations. To this end the course will focus on building up confidence in English abilities through scaffolded listening and speaking activities. Students will also learn about American and British customs and culture in order to introduce a more international outlook.		
授業概要	【担当者の実務経験：日本の文化になじみのない英会話教師をサポートしてきた職務経験を活用し、コミュニケーションをとる中で日本と外国の文化的なギャップへの実際の経験に基づく対処法を身につけます。】 The course will review speaking activities familiar to the students such as introductions, family life and hobbies before introducing more challenging communication activities such as asking for information, telling a story and discussing problems. 【SDGs：4】		
授業計画	① Orientation. Introduction and ice breaker activities. ② Class album. Simple information exchange. Polite, impolite questions. ③ Favorite photos. Describing family and friends. Follow up questions. ④ Personal goals. Describing future goals. Asking for advice. ⑤ Believe it or not. Telling a story. Reacting with interest. ⑥ Where I grew up. Using the past tense and `used to`. ⑦ Bargain shopper. Shopping expressions and bargaining for goods. ⑧ Review and mid term speaking assessment. ⑨ The perfect gift. Japanese, American and UK gift giving customs. ⑩ Party planner. Holidays in Japan, the US and the UK. Invitations. ⑪ Music profile. Likes, dislikes and genres of music. Reported speech. ⑫ Style makeover. Describing appearance and clothing. Giving advice. ⑬ Honesty. Telling stories. Asking hypothetical questions. ⑭ Making things better. School problems. Using `too` and `(not) enough`. ⑮ Review and speaking assessment. ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 Weekly vocabulary lists. 【復習】 Speaking assessment 1 and 2.		
評価方法	Week 8 speaking assessment 1, 20%. Week 15 speaking assessment 2, 20%. Participation, 10%. End of term examination, 50%.		
履修条件	なし		
教科書	Active Skills for Communication Book 2. HEINLE CENGAGE learning. Sandy, Kelly.		
参考書	なし		

科目名	ベーシックライティング Basic Writing	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業では、英語らしい英文を書くための基礎力を身につけることを目的とする。英語と日本語は文法や語彙が異なることはもちろんだが、日本語の発想に基づいて単に、英単語を英語の文法に当てはめるだけでは英語らしい表現にはならない。英語らしい英文を書く基礎を学修するうえで、日本語とのズレや相違に気づき、「英語的な発想」を理解しすることを到達目標とする。		
授業概要	日本語の発想から脱して英語の発想で英文を書く基礎力を身につけるため、まずは日本人が間違えやすい文法事項について、例文と練習問題をとおして学修する。練習問題では英文の正誤を判断する問題から順に、短い日本語を英訳する問題へと段階的に進め、英語モードの基礎力を養う。さらに、学修した英語的発想を活かし、より情報量のある英文を書くため、単文から重文、複文というより複雑な文を書く練習へ発展させる。 【SDGs：4】		
授業計画	① ガイダンス ② 主語 ③ 動詞 ④ 形容詞（1） ⑤ 形容詞（2） ⑥ 副詞 ⑦ 助動詞 ⑧ 時制（1） ⑨ 時制（2） ⑩ 接続詞 ⑪ 単文 ⑫ 重文 ⑬ 複文（1） ⑭ 複文（2） ⑮ パラグラフライティング		
予復習等	【予習】 各セクションの練習問題を解いておくこと（45分） 【復習】 重要項目をまとめること（45分）		
評価方法	出席状況・授業態度20%、課題・小テスト：30%、ライティング課題：50%		
履修条件	なし		
教科書	『英語モードが身につくライティング』/著：大井恭子 伊藤文彦/出版：研究者		
参考書	なし		

科目名	ビジネス英語 I Business English I	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	佐竹 直喜	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	ビジネス英語を中心に、ビジネスに対応する英語での発想、情報収集、表現力などに関する英語コミュニケーションと、ビジネスをめぐる社会環境、文化的側面の英語獲得につながるビジネス英語の基礎を身につける。また授業の中では英語によるコミュニケーション能力を評価する世界共通のテストであり、特にビジネス社会において、海外赴任や昇進の要件や新入社員の採用基準としてそのスコアが参考にされるTOEICの演習も行い、ビジネス英語の獲得に挑戦し、語彙やリスニング力の練習を通して磨き上げ、総合的な英語力の向上を目指す。		
授業概要	ビジネスで活用できる様々な英語の表現をインプットする。新聞、雑誌などの記事を通じて経済、社会についての英文に親しむ。その中で多くの表現を学習し、実践に極めて近い英語アウトプットができるようにする。また、TOEICのビジネスシーン分野を扱い、そこから使える英語を学ぶ練習をする。 指定したテキストも活用し、TOEIC500～550点獲得を目指して必要な英語力を身につけることを目的とする。TOEICに必要な英単語力の強化、リスニング演習、リーディング演習を行う。 【SDGs: 4, 5, 9】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② Unit 1 ③ Unit 2 ④ Unit 3、ビジネス英語教材 ⑤ Unit 4、ビジネス英語教材 ⑥ Unit 5、ビジネス英語教材 ⑦ 演習、ビジネスについて考える英語 ⑧ Unit 6 ⑨ Unit 7、ビジネス英語教材 ⑩ Unit 8、ビジネス英語教材 ⑪ 演習、ビジネスについて考える英語 ⑫ Unit 9 ⑬ Unit 10、ビジネス英語教材 ⑭ Unit 11、ビジネス英語教材 ⑮ まとめ 		
予復習等	各自学習した教材の復習を行い、土台の積み上げをすること。 また、インターネット等を利用し、いろいろな英語題材に触れ、インプットを増やすこと。		
評価方法	授業参加状況（課題の提出を含む場合がある）40% 小テスト等 60%		
履修条件			
教科書	・TOEIC® L&R TESTへの総合アプローチ -Intermediate-（成美堂） ・TOEIC L&Rテスト英単語ターゲット1100（旺文社）		
参考書			

科目名	初級中国語 I (Aクラス) Basic Chinese I	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業は、中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、楽しみながら中国語に親しみ、基礎を身につけることを目的とする。中国語には日本語にない声調があり、正確な発音が学習の基盤となるため、まずはピンインと声調の習得に重点を置き、中国語の音声に慣れることを目指す。授業では、発音指導と基礎的な文法学習に加え、中国語圏の文化やことばの表現習慣にも触れていく。 さらに後期に開講される「初級中国語Ⅱ」および「中級中国語」を履修することで、中国語検定準4級または4級の取得を目指すことができる。 すでに高校で中国語を学んだ経験がある学生には、「中国系特論Ⅰ」の履修を推奨する。		
授業概要	【担当者の実務経験：トヨタ自動車子会社技術職10年（海外赴任経験あり）、中国の水族館副館長5年、ベンチャー企業社外取締役4年。】 本授業では、テキストに沿って発音練習・文法の説明・リスニングを中心に学習を進める。授業内では、受講者全員に練習の機会を設け、発音の実践や文法理解を反復練習により深めながら、主体的に学ぶ姿勢を促す。中国語学習でつまずきやすい点については、担当者の実務経験を活かし、時間をかけて丁寧に解説する。 前期の「初級中国語Ⅰ」で基礎を身につけたうえで、後期の「初級中国語Ⅱ」「中級中国語」「中国系特論Ⅱ」へ進むことで、さらなる語学力の向上が期待できる。 【SDGs: 10, 16】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 中国語学習について（2年間どのように中国語を履修するか、検定資格の習得など） ② 第1課ピンイン（単母音、複合母音、声調） ③ 第2課ピンイン（子音、声調）□ ④ 第3課変調の規則、ピンインの復習 ⑤ 第4課 お名前は？ ⑥ 第4課の文法とリスニング練習 ⑦ 第5課 どこへ行きますか？ ⑧ 第5課の文法とリスニング練習 ⑨ 第6課 ブーアル茶が飲みたい。 ⑩ 第6課の文法とリスニング練習 ⑪ 第7課 あなたは何が好きですか？ ⑫ 第7課の文法とリスニング練習 ⑬ 第8課 卓球の中国チームは強い。 ⑭ 第8課の文法とリスニング練習 ⑮ 復習・テスト練習 ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】各課の文法事項に目を通し、その内容を事前に理解しておくこと。 【復習】前回の内容を復習し、授業の最後に行うリスニング練習にも継続して取り組むこと。		
評価方法	出席・受講状況50%、定期試験50%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書			
参考書	なし		

科目名	初級中国語Ⅰ (Bクラス) Basic Chinese I	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	徳谷 冬暁	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>本授業は、中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、楽しみながら中国語に親しみ、基礎を身につけることを目的とする。中国語には日本語にない声調があり、正確な発音が学習の基盤となるため、まずはピンインと声調の習得に重点を置き、中国語の音声に慣れることを目指す。授業では、発音指導と基礎的な文法学習に加え、中国語圏の文化やことばの表現習慣にも触れていく。</p> <p>さらに後期に開講される「初級中国語Ⅱ」および「中級中国語」を履修することで、中国語検定準4級または4級の取得を目指すことができる。</p> <p>すでに高校で中国語を学んだ経験がある学生には、「中国系特論Ⅰ」の履修を推奨する。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：岡山外語学院、岡山ビジネスカレッジなどで数学と理科を教えて、現在東海医療科学専門学校で医療中国語を7年間教えています。】</p> <p>本授業では、テキストに沿って発音練習・文法の説明・リスニングを中心に学習を進める。授業内では、受講者全員に練習の機会を設け、発音の実践や文法理解を反復練習により深めながら、主体的に学ぶ姿勢を促す。中国語学習でつまづきやすい点については、担当者の実務経験を活かし、時間をかけて丁寧に解説する。</p> <p>前期の「初級中国語Ⅰ」で基礎を身につけたうえで、後期の「初級中国語Ⅱ」「中級中国語」「中国系特論Ⅱ」へ進むことで、さらなる語学力の向上が期待できる</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 中国語学習について (2年間どのように中国語を履修するか、検定資格の習得など) ② 第1課ピンイン (単母音、複合母音、声調) ③ 第2課ピンイン (子音、声調) □ ④ 第3課変調の規則、ピンインの復習 ⑤ 第4課 お名前は？ ⑥ 第4課の文法とリスニング練習 ⑦ 第5課 どこへ行きますか？ ⑧ 第5課の文法とリスニング練習 ⑨ 第6課 ブーアル茶が飲みたい。 ⑩ 第6課の文法とリスニング練習 ⑪ 第7課 あなたは何が好きですか？ ⑫ 第7課の文法とリスニング練習 ⑬ 第8課 卓球の中国チームは強い。 ⑭ 第8課の文法とリスニング練習 ⑮ 復習・テスト練習 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】各課の文法事項に目を通し、その内容を事前に理解しておくこと。</p> <p>【復習】前回の内容を復習し、授業の最後に行うリスニング練習にも継続して取り組むこと。</p>		
評価方法	出席・受講状況50%、定期試験50%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書			
参考書	なし		

科目名	初級中国語Ⅱ (Aクラス) Basic Chinese II	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本授業は、前期の「初級中国語Ⅰ」で身につけた基礎的な発音・文法・語彙を土台として、さらに実践的な初級中国語の運用力を養うことを目的とする。文法の理解を深めるとともに、会話表現・リスニング・読解の練習を通して、日常的な場面で使われる中国語を正しく理解し、簡単なコミュニケーションができる力を育成する。</p> <p>また、本授業とあわせて「中級中国語」および「中国系特論Ⅱ」の履修を推奨する。資格取得を希望する学生については、毎年11月に実施される中国語検定準4級または4級を団体受験する予定である。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：トヨタ自動車子会社技術職10年 (海外赴任経験あり)、中国の水族館副館長5年、ベンチャー企業社外取締役4年。】</p> <p>本授業では、テキストに沿って初級レベルの文法・語彙・会話表現を学び、発音練習・リスニング・読解を通して運用力の定着を図る。前期で学んだ基礎を発展させ、日常場面で使える中国語を理解し、簡単なコミュニケーションができる力を養う。</p> <p>また、前期の「初級中国語Ⅰ」で基礎を身につけたうえで、後期の「初級中国語Ⅱ」「中級中国語」「中国系特論Ⅱ」を履修すれば、さらなる語学力の向上が期待できる。</p> <p>【SDGs：10, 16】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 前期の復習 ② 第2課 中国方言多，民族也多。 ③ 第2課の文法と練習 ④ 第3課 坐地铁去吧 ⑤ 第3課の文法と練習 ⑥ 第4課 用手机上网查查。 ⑦ 第4課の文法と練習 ⑧ 第5課 我也想去锻炼锻炼。 ⑨ 第5課の文法と練習 ⑩ 第6課 你弹的古筝太好听了！ ⑪ 第6課の文法と練習 ⑫ 第7課 学习中文写作 ⑬ 第7課の文法と練習 ⑭ 第8課 学习中文写作 ⑮ 復習 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】各課の文法事項に目を通し、その内容を事前に理解しておくこと。</p> <p>【復習】前回の内容を復習し、授業の最後に行うリスニング練習にも継続して取り組むこと。</p>		
評価方法	出席・受講状況50%、定期試験50%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書			
参考書	なし		

科目名	初級中国語Ⅱ (Bクラス) Basic Chinese II	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	徳谷 冬暁	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>本授業は、前期の「初級中国語Ⅰ」で身につけた基礎的な発音・文法・語彙を土台として、さらに実践的な初級中国語の運用力を養うことを目的とする。文法の理解を深めるとともに、会話表現・リスニング・読解の練習を通して、日常的な場面で使われる中国語を正しく理解し、簡単なコミュニケーションができる力を育成する。</p> <p>また、本授業とあわせて「中級中国語」および「中国系特論Ⅱ」の履修を推奨する。資格取得を希望する学生については、毎年11月に実施される中国語検定準4級または4級を団体受験する予定である。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：岡山外語学院、岡山ビジネスカレッジなどで数学と理科を教えて、現在東海医療科学専門学校で医療中国語を7年間教えています。】</p> <p>本授業では、テキストに沿って初級レベルの文法・語彙・会話表現を学び、発音練習・リスニング・読解を通して運用力の定着を図る。前期で学んだ基礎を発展させ、日常場面で使える中国語を理解し、簡単なコミュニケーションができる力を養う。</p> <p>また、前期の「初級中国語Ⅰ」で基礎を身につけたうえで、後期の「初級中国語Ⅱ」「中級中国語」「中国系特論Ⅱ」を履修すれば、さらなる語学力の向上が期待できる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 前期の復習 ② 第2課 中国方言多，民族也多。 ③ 第2課の文法と練習 ④ 第3課 坐地铁去吧 ⑤ 第3課の文法と練習 ⑥ 第4課 用手机上网查查。 ⑦ 第4課の文法と練習 ⑧ 第5課 我也想去锻炼锻炼。 ⑨ 第5課の文法と練習 ⑩ 第6課 你弹的古筝太好听了！ ⑪ 第6課の文法と練習 ⑫ 第7課 学习中文写作 ⑬ 第7課の文法と練習 ⑭ 第8課 学习中文写作 ⑮ 復習 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】各課の文法事項に目を通し、その内容を事前に理解しておくこと。</p> <p>【復習】前回の内容を復習し、授業の最後に行うリスニング練習にも継続して取り組むこと。</p>		
評価方法	出席・受講状況50%、定期試験50%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書			
参考書	なし		

科目名	初級韓国語Ⅰ Basic Korean I	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>韓国語の入門講座として、韓国語を表記する文字であるハングルとハングルで表記された韓国語の発音とを習得するとともに、基礎的な韓国語の文章が読めるようになることを目指す。前半ではハングルでの表記と、その発音を習得し、後半では基礎的な文章を読むことができ、発話できるようになることを目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：在外公館での翻訳、通訳の経験あり】</p> <p>配布するプリントの学習内容にしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から、日本人が習得には困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。受講者には韓国語で発話してもらったり、質問に答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。</p> <p>【SDGs：4, 10】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ハングルの習得と発音 (1)：母音 ② ハングルの習得と発音 (2)：母音 (二重母音) と子音 ③ ハングルの習得と発音 (3)：子音 (激音) ④ ハングルの習得と発音 (4)：子音 (濃音) ⑤ ハングルの習得と発音 (5)：パッチム① ⑥ ハングルの取得と発音 (6)：パッチム② ⑦ ～です。～ですか。 ⑧ ～ではありません。 ⑨ ～があります。～がいます。～がありません。～がいけません。 ⑩ あれ、これ、それ。 ⑪ 文の構造 (主語＋述語、主語＋目的語＋述語) ⑫ (場所) に、ここ、そこ、あそこ ⑬ ～してください。～しましょう。 ⑭ 尊敬の形、～を、～も ⑮ ～したいです。～と ⑯ 定期試験 		
予復習等	プリントの中から、次回の事業で学ぶ内容を確認しておくこと。毎回の授業内容の復習に努めること。		
評価方法	定期試験 50%、出席状況および授業態度 50%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	必要に応じて紹介する。		

科目名	初級韓国語Ⅱ Basic Korean Ⅱ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「初級韓国語Ⅰ」の学習の上に、基礎的な韓国語の能力を習得するために「読む、聞く、話す、書く」の4つの技能の基礎的な練習を行ながら、基礎的な韓国語の能力の習得を目的とする。具体的には、授業を通じて習得した基礎的な韓国語の文章を発話したり、聞き取ったりすることができるようになることを目標とする。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：在外公館での翻訳、通訳の経験あり】</p> <p>配布するプリントの学習内容にしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。受講者には韓国語で発話してもらったり、質問に答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。</p> <p>【SDGs：4,10】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 数字（固有語）、時間 ② 未来形（意志、推測）、～でしょう（同意を求める、確認を得る） ③ 動詞や形容詞の否定形、～しましょうか（提案） ④ 過去形 ⑤ ～と～、～といっしょに ⑥ 数字（漢字語） ⑦ ～してください。 ⑧ 用言（動詞、形容詞、指定詞、存在詞） ⑨ （場所）で、（場所）から、文の接続（1）（～して～、～で～） ⑩ 人称代名詞 ⑪ （場所）へ、（手段）で、（場所）まで ⑫ （程度）ぐらい、（理由）～なので、（継続）～したら～でした ⑬ 文の接続（2）（～して～） ⑭ 語幹の活用 ⑮ ㄹ不規則変化 ⑯ 定期試験 		
予復習等	プリントの中から、次回の授業で学ぶ単語の意味を調べ、例文を読んでおくこと。毎回授業の内容の復習に努めること。		
評価方法	定期試験50%、出席状況および授業態度50%		
履修条件	「初級韓国語Ⅰ」の学習内容を習得していること。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	問い合わせに応じて紹介する。		

科目名	日本語表現法Ⅰ Japanese Composition Ⅰ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本語を世界のなかの一言語としてとらえ、長所や弱点を客観的に知ること、日常生活やビジネスの場で、読み手に伝わりやすい書きことばの表現を自分で考え、作文に応用できるようになることを目的とする。さまざまな種類の文章に触れることにより、その文章を書く目的は何か、目的に応じて求められる内容は何かを的確に判断し、場面に応じて適切な書きことばの表現を選択できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：なし】</p> <p>ことばの4機能である「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」のうち、本講義では「書く」ことを中心に扱う。まず日本語の特質を客観的にとらえることから始め、それを念頭に、内容を読み手に適切に伝えるための語句の選択、自然な語順、待遇表現と敬語、文章のさまざまな型を学ぶ。テキスト各節の練習問題および付録のワークブックを用い、実用文書としての案内文や型に依りつつ個性を発揮できる手紙文の作成のほか、文章の要約の練習も取り入れながら進める。課題レポートを作成するためのポイントやタイトルの付け方、内容の組み立て方も実践的に学ぶ。</p> <p>【SDGs：4,10】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス、日本語の書きことばの特質（1） ② 日本語の書きことばの特質（2） ③ 日本語の書きことばの特質（3） ④ 語句の選択、自然な語順、表記 ⑤ 待遇表現と敬語（1） ⑥ 待遇表現と敬語（2） ⑦ 待遇表現と敬語（3）、文章を書く際の留意点 ⑧ 文章の種類と型、求められる内容 ⑨ 案内文の作成 ⑩ 手紙文の作成（1） ⑪ 手紙文の作成（2） ⑫ 手紙文発表・講評 ⑬ 文章の要約（1） ⑭ 文章の要約（2） ⑮ 文章の要約（3） ⑯ 定期試験 		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40%、演習・発表への取り組み30%、定期試験30%		
履修条件	なし		
教科書	プリントを配布する		
参考書	必要に応じてプリントを配布する		

科目名	日本語表現法Ⅱ Japanese Composition Ⅱ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	コミュニケーションにおける話しことばの重要性を認識し、日常生活やビジネスの場において、相手や場面に応じた適切なことば遣いを選択できるようになること、話し手の気持ちをくみ取った話の聞き方、相づちの打ち方などができるようになることを目的とする。特に、適切な敬語の使い方を中心に丁寧語・改まり語などを実践的に学ぶことで、自分の置かれたさまざまな場面や状況、相手に応じた自然で好印象なことば遣いができるようになることを到達目標とする。		
授業概要	【実務経験：なし】 ことばの4機能である「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」のうち、本講義では「話す」・「聞く」ことを中心に扱う。特に社会人として必須の敬語の習得に力を入れ、ロールプレイなど実践的な学習方法を取り入れ、自然に適切なことば遣いが身につくようにする。さらに、面接試験などの緊張した場面に身を置いた際にも、自分の言いたいことを的確に伝えることができるよう、話の構成技術も習得する。人前で話すことが苦手な方も自信がつき、より積極的になれるよう指導する。また「聞く」ことは「話す」以上に重要であるため、技術だけでなく、話し手の内面を思いやる表現方法についても学ぶ。 【SDGs：4, 10】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス、コミュニケーション能力の確認 ② コミュニケーションの中のことばの重要性を再認識する ③ あいさつ表現 ④ 導入ロールプレイ ⑤ 発音・発声、語尾・話しぐせ ⑥ 発話内容のまとめ方、明確な伝え方 ⑦ 敬語の必要性、敬語の種類 ⑧ 敬語のロールプレイ（1） ⑨ 敬語のロールプレイ（2） ⑩ 敬語のロールプレイ（3）発表および講評 ⑪ 話の構成技術を学ぶ（1） ⑫ 話の構成技術を学ぶ（2） ⑬ 話の構成技術を学ぶ（3）成果発表 ⑭ 効果的な話の聞き方（1） ⑮ 効果的な話の聞き方（2） ⑯ 定期試験 		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40%、演習・発表への取り組み30%、定期試験30%		
履修条件	なし		
教科書	『コミュニケーション技法』／編著：プレゼンテーション学研究会／出版：ウィネット		
参考書	必要に応じてプリントを配布する		

科目名	日本語教授基礎理論 Introduction to Japanese Language Teaching	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日常生活において、母語話者として無意識に使用している日本語を客観的にとらえ、外国人に日本語を教えるために知っておくべき「言語としての日本語」の特徴を理解できることを目的とする。日本語を教える際に必要な日本語の基礎知識を身につけると同時に、修得した外国語の知識や運用能力を活かすことで、実際に日本語を教える場に身を置いた際、本講義で学んだ内容を応用し実践できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	【実務経験：なし】 本講義では、主に日本語教育に全く携わったことのない方を対象とした、日本語教育に必要な基礎知識を身につける。英語を中心とした外国語との対象言語学的視点から、外国人に日本語を教える際に必要な日本語のさまざまな知識や、日本語が世界の一言語としてどのような特徴をもっているのかを概略的に学ぶ。加えて、日本語の教え方の背景も自ら考えつつ学ぶ。これらの知識を身につけることにより、実際に日本語を教える際、修得した外国語の知識や運用能力を活かしつつ、外国人学習者から投げかけられるさまざまな質問に備え、自分の教え方に役立てる契機を作る。 【SDGs：4, 10】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス、外国人に日本語を教えることについて ② 言語としての日本語（1） ③ 言語としての日本語（2） ④ 日本語の音声（1） ⑤ 日本語の音声（2） ⑥ 日本語の音声（3） ⑦ 日本語の文法（1） ⑧ 日本語の文法（2） ⑨ 日本語の文法（3） ⑩ 日本語の文法（4） ⑪ 日本語の文法（5） ⑫ 日本語の文字・表記、日本語の語彙 ⑬ 社会言語学（1） ⑭ 社会言語学（2） ⑮ 日本語教育と心理学 ⑯ 定期試験 		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40%、定期試験60%		
履修条件	なし		
教科書	『新・はじめての日本語教育』／監修：高見澤孟／出版：アスク出版		
参考書	必要に応じて配布プリント、映像教材を用いる		

科目名	西洋近現代史 Modern Western History	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	藤田 怜史	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>本講義の目的は、西洋近現代の歩みを概観することにより、いまわれわれがどんな時代を生きているのかを深く理解し、今後の日本や世界情勢がどのように展開するかを考察するための知的土台を形成することを目的とする。具体的な目標は以下のとおり。</p> <p>1：受講生は、西洋近現代の説明を理解することができる。</p> <p>2：受講生は、現代の国際的な諸問題の背景を理解することができる。</p> <p>3：受講生は、今後の世界情勢の展開を多面的に考察することができる。</p>		
授業概要	<p>本講義は、主に「近代」より少し前からの西洋の歴史を概観し、近代および現代という時代がどのような特徴を持つ時代であるかについて理解を深めることを目的とする。主に西洋史を扱うことになるが、それは、近代と前近代を分かち思想の多く（個人主義や自由主義）が西洋において生まれたためである。個人の自由や平等をうたうこうした思想が今なおわれわれの世界の思想的基盤をなしているのであり、差別の廃止や平等の推進が世界全体の政策目標として掲げられているのである。それに加えて本講義は同時代における国際関係の構造の推移についても注目する。それにより、昨今の国際情勢がなぜ不安定なのかを理解し、今後の展開を深く考察する機会をもってもらいたい。</p> <p>【SDGs：4, 5, 10, 11, 16, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション：「近代」とはなにか？ 世界史（西洋史）の時代区分 ② ヨーロッパ宗教改革：主権国家体制の確立 ③ 近世ヨーロッパの展開：「ヨーロッパ共和国」の拡大 ④ 「大西洋革命」と近代①：アメリカ独立革命 ⑤ 「大西洋革命」と近代②：フランス革命 ⑥ 革命の反動と国民国家の成立 ⑦ 産業革命：資本主義と工業化社会に向けて ⑧ 帝国主義の時代 ⑨ 第一次世界大戦とその影響 ⑩ 第一次世界大戦とその影響 ⑪ 第二次世界大戦へ向かう世界 ⑫ ミソ冷戦の時代 ⑬ 「自由」をめぐる議論と普遍的な人権概念の成立 ⑭ 多極化・混迷の時代 ⑮ 全体のまとめ ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>予習：事前配布資料がある場合、それを読んでおく。</p> <p>復習：講義中にとったメモなどを整理し、簡単にまとめておく。わからなかった、関心を持った用語・出来事について自分で調査をする。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度（30%）、定期試験or期末レポート（70%）		
履修条件	なし。		
教科書	なし。資料を配布する。		
参考書	『大学で学ぶ西洋史 [近現代]』／著：小山哲ほか編著／ミネルヴァ書房 『論点・西洋史学』／著：金澤周作監修／ミネルヴァ書房		

科目名	現代企業事情 Contemporary Business Trend	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）【他学科専門科目】	科目区分	講義
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本授業は、学生が「働くこと」について主体的に考えることを目的とする。そのために、企業の原理・機能・役割などの基礎を学び、現代社会における様々な働き方と、それに応じたキャリアデザインの形成について理解を深める。</p> <p>また、学生自身が将来どのような仕事に就きたいか、どのように働きたいかといった自己のキャリアビジョンを明確にし、その実現に向けて大学生活をどのように過ごすべきかを主体的に考えられる力を身につけることを到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：トヨタ自動車子会社技術職10年（海外赴任経験あり）、中国の水族館副館長5年、ベンチャー企業社外取締役4年。】</p> <p>本授業では、企業の基本的な仕組みや働き方について講義形式で学ぶとともに、岐阜地域の企業経営者や人事担当者をゲストとして招き、企業の現場で求められる視点や働き方のリアルティに触れる機会を提供する。</p> <p>また、担当教員が国際業務や企業経営、人材育成に携わってきた経験を共有し、組織の成長や人材育成を多角的に理解する視点を養う。さらに、ゲストとの対話や授業内ディスカッションを通して、学んだ内容を自身の働き方やキャリア形成に結びつけて考えることを重視する。</p> <p>【SDGs：10, 16】 【岐阜学関連の授業回：全ての回】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 第1回 ガイダンス：授業目的・働くとは何かを考える ② 第2回 企業の役割と社会における位置づけ ③ 第3回 企業の組織構造と機能 ④ 第4回 現代社会の多様な働き方（正規・非正規・フリーランス・副業など） ⑤ 第5回 実務経験者との交流会（企業経営の視点） ⑥ 第6回 キャリアデザインの基礎 ⑦ 第7回 組織の成長と人材育成 ⑧ 第8回 実務経験者との交流会（採用・働き方のリアル） ⑨ 第9回 業界研究・企業研究の方法を学ぶ ⑩ 第10回 自分の働き方を描く ⑪ 第11回 実務経験者との交流会（若手社員のキャリア形成） ⑫ 第12回 まとめ：企業理解とキャリア形成の総合振り返り口 ⑬ グループ発表 ⑭ グループ発表 ⑮ グループ発表 		
予復習等	<p>【予習】日頃からニュースや社会の動向に関心を持ち、関連する情報収集を行うこと。</p> <p>【復習】授業内容で疑問に感じた点を自ら調べ、必要に応じて Teams を通じて質問や意見交換を行うこと。</p>		
評価方法	出席・受講状況50%、グループ発表による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	なし（PowerPointを使用）		
参考書	なし		

科目名	現代企業事情 Contemporary Business Trend	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）【他学科専門科目】	科目区分	講義
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本授業は、学生が「働くこと」について主体的に考えることを目的とする。そのために、企業の原理・機能・役割などの基礎を学び、現代社会における様々な働き方と、それに応じたキャリアデザインの形成について理解を深める。</p> <p>また、学生自身が将来どのような仕事に就きたいか、どのように働きたいかといった自己のキャリアビジョンを明確にし、その実現に向けて大学生活をどのように過ごすべきかを主体的に考えられる力を身につけることを到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：トヨタ自動車子会社技術職10年（海外赴任経験あり）、中国の水族館副館長5年、ベンチャー企業社外取締役4年。】</p> <p>本授業では、企業の基本的な仕組みや働き方について講義形式で学ぶとともに、岐阜地域の企業経営者や人事担当者をゲストとして招き、企業の現場で求められる視点や働き方のリアルティに触れる機会を提供する。</p> <p>また、担当教員が国際業務や企業経営、人材育成に携わってきた経験を共有し、組織の成長や人材育成を多角的に理解する視点を養う。さらに、ゲストとの対話や授業内ディスカッションを通して、学んだ内容を自身の働き方やキャリア形成に結びつけて考えることを重視する。</p> <p>【SDGs：10, 16】 【岐阜学関連の授業回：全ての回】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 第1回 ガイダンス：授業目的・働くとは何かを考える ② 第2回 企業の役割と社会における位置づけ ③ 第3回 企業の組織構造と機能 ④ 第4回 現代社会の多様な働き方（正規・非正規・フリーランス・副業など） ⑤ 第5回 実務経験者との交流会（企業経営の視点） ⑥ 第6回 キャリアデザインの基礎 ⑦ 第7回 組織の成長と人材育成 ⑧ 第8回 実務経験者との交流会（採用・働き方のリアル） ⑨ 第9回 業界研究・企業研究の方法を学ぶ ⑩ 第10回 自分の働き方を描く ⑪ 第11回 実務経験者との交流会（若手社員のキャリア形成） ⑫ 第12回 まとめ：企業理解とキャリア形成の総合振り返り ⑬ グループ発表 ⑭ グループ発表 ⑮ グループ発表 		
予復習等	<p>【予習】日頃からニュースや社会の動向に関心を持ち、関連する情報収集を行うこと。</p> <p>【復習】授業内容で疑問に感じた点を自ら調べ、必要に応じて Teams を通じて質問や意見交換を行うこと。</p>		
評価方法	出席・受講状況50%、グループ発表による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	なし(PowerPointを使用)		
参考書	なし		

科目名	英語圏文化・社会 Anglophone Culture and Society	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	藤田 怜史	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>本講義の目的は、アメリカ合衆国が持つ様々な多様性を理解し、異文化に対する理解と関心を深めることである。具体的な到達目標は以下のとおり。</p> <p>1：受講生は、アメリカの地理的広大さが多様性の土台となっていることを理解できる。</p> <p>2：受講生は、現在のアメリカの人種的・民族的・性的多様性を把握しつつ、その多様性が認められるまでの道のりがいかなるものであったかを説明することができる。</p> <p>3：受講生は、様々なテーマに関する調査・プレゼンを通じ、アメリカの多様性について関心を深め、発信することができる。</p>		
授業概要	<p>アメリカ合衆国は様々な意味で多様性の国である。アメリカは地理的広大さゆえに多様な自然・風土を持ち、それが産業や人びとの気質にさまざまな違いを生んでいる。アメリカは白人を中心とする国であるが、アフリカから連れてこられた黒人たちはアメリカ史を語る上では欠かせない存在であり、また近年アジア系やヒスパニック系の人びとの数も増えている。またひとくちに「白人」といっても、そこにはさまざまなエスニックがいる。女性や性的マイノリティもまた歴史的な抑圧に抵抗し、権利獲得が進んでいる。受講生には、こうしたさまざまな多様性が、現代アメリカの社会や文化にどのような好影響を与えているか、あるいはどのような問題をはらんでいるかを考察してもらいたい。</p> <p>※受講生の数により、授業計画が変わる可能性がある</p> <p>【SDGs：1, 4, 5, 10, 16, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション：アメリカとはどんな国か ② アメリカの国土 ③ アメリカの地域差 ④ プレゼンⅠ：アメリカの名物・名産品・観光地・流行に関する調査1 ⑤ プレゼンⅠ：アメリカの名物・名産品・観光地・流行に関する調査2 ⑥ アメリカ黒人の歴史（1） ⑦ アメリカ黒人の歴史（2） ⑧ アメリカにおける移民（1） ⑨ アメリカにおける移民（2） ⑩ アメリカにおける女性運動と性的マイノリティ（1） ⑪ アメリカにおける女性運動と性的マイノリティ（2） ⑫ プレゼンⅡ：奴隷制度、黒人差別、黒人文化に関する調査 ⑬ プレゼンⅢ：白人移民、日系、アジア系、ヒスパニック系移民に関する調査 ⑭ プレゼンⅣ：ジェンダー問題に関する調査 ⑮ まとめ：アメリカの多様性と、それに対する抵抗 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>予習：配布物がある場合、事前にそれを読んでおくこと。また複数回行われるさまざまな調査について準備をする。</p> <p>復習：各講義で扱ったテーマに関するニュースや文献などに触れ、自身の調査に活かす。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度（20%）、プレゼン（30%）、期末レポート（50%）		
履修条件	なし		
教科書	なし。資料を配布する。		
参考書	<p>『よくわかるアメリカの歴史』／著：梅崎透ほか編著／ミネルヴァ書房</p> <p>『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』／著：遠藤泰生ほか編著／ミネルヴァ書房</p>		

科目名	アジア文化・社会 Asian Culture and Society	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本やアジアの文化・社会を文化人類学（社会人類学）の立場から学ぶことを通じて、価値の多様性を理解することを目指す。具体的には、学生が日本やアジアについて文化人類学（社会人類学）による基礎知識を修得するとともに、多様な文化・社会を理解するために文化（社会）人類学が提出してきた文化・社会に対する味方、考え方を理解し、アジア各地の事例について文化（社会）人類学による見方が説明できるようになることを目標とする。		
授業概要	最初に、文化人類学（社会人類学）という学問の特徴や文化の概念、フィールドワークの特徴等を学ぶ。次に、日本やアジア、とりわけ日本の隣国である中国や韓国での生活様式のなかから、婚姻、家族、親族、出自などをとりあげて、それぞれについて文化人類学（社会人類学）による見方や概念を学ぶ。レポートや定期試験では、授業で学んだ文化、婚姻、家族、親族、出自などに関する文化（社会）人類学による基礎知識や見方を身につけているかを問うので、復習を欠かさないこと。 【SDGs：10, 16, 17】 【岐阜学関連の授業回：⑤, ⑧】		
授業計画	① 文化人類学（社会人類学）について ② 文化について ③ 婚姻（1）婚姻の概念 ④ 婚姻（2）アジアでの冥婚（日本、韓国、中国漢族） ⑤ 婚姻（3）アジアでの婚姻（日本、韓国、中国漢族） ⑥ 父と母 ⑦ 家族（1）家族の概念 ⑧ 家族（2）日本の家族 ⑨ 家族（3）韓国の家族、中国漢族の家族 ⑩ 出自（1）出自の概念 ⑪ 出自（2）中国漢族、韓国の場合：父系出自 ⑫ 出自（3）その他の地域の場合：母系出自、双系出自 ⑬ 出自（4）日本の場合 ⑭ 親族（1）親族の概念 ⑮ 親族（2）日本、韓国、中国漢族の場合 ⑯ 定期試験		
予復習等	配布されたプリントを整理し、次の授業時間に使用するプリントの内容を確認しておくこと。授業後は、学んだ内容のノート整理を怠らないこと。		
評価方法	【自科学学生の場合】レポート50%、定期試験50% 【他科学学生の場合】レポート50%、定期試験50%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	『文化人類学入門』／著・祖父江孝男／出版・中央公論社（中公新書）		

科目名	日本文学概論 Japanese Literature	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	さまざまな時代の日本文学作品を、時代背景や表現された人間の内面を掘り起こすことで広く人間の理解につなげ、日常生活・社会生活を心豊かでよりよいものにする契機をつかむことを目的とする。各時代の作品の成立の背景や特徴を丁寧に味わいながら、作品に込められた意図や登場人物の心の動きを考え、自分の心に存在するさまざまな感情に気づくことで、どう生きるかを自ら考え、自己および他者を理解する手段として日本文学作品を活用できるようになることを到達目標とする。異文化間のコミュニケーションの手段として、日本文学作品を誦れる人になることも到達目標とする。		
授業概要	【実務経験：なし】 上代・中古・中世・近世・近代の日本文学作品の中から、学生の皆さんに基本的な教養として知っておいてもらいたいものを厳選して取り上げ、作品世界に反映された人間のさまざまな心の側面を認識するという目的で構成されている。「難しい」という印象を抱かれがちな日本文学の世界だが、まずは身構えずにその世界を味わってみることで作品に興味を持ち、読書によって視野を広げ、感性を磨く若者が増えることを希望の目標とする。文学作品世界への認識を深め、人の心の動きについて考えることで、実生活において自己も他者も活かせる生き方を見出すきっかけにもらえるよう講義を進める。 【SDGs：4, 10】		
授業計画	① ガイダンス、『万葉集』（1） ② 『万葉集』（2） ③ 和歌から物語へ（1） ④ 和歌から物語へ（2）、『源氏物語』（2） ⑤ 『源氏物語』（2） ⑥ 『新古今和歌集』（1） ⑦ 『新古今和歌集』（2） ⑧ 『徒然草』 ⑨ 浄瑠璃—近松門左衛門 ⑩ 日本文学の視点から、どう生きるかを考える ⑪ 夏目漱石（1） ⑫ 夏目漱石（2） ⑬ 夏目漱石（3） ⑭ 谷崎潤一郎（1） ⑮ 谷崎潤一郎（2） ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40%、定期試験60%		
履修条件	なし		
教科書	プリントを配布する		
参考書	必要に応じて配布プリント、映像教材を用いる		

科目名	English Conversation English Conversation	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	This course aims to help students move beyond basic English expressions and move toward using more natural, native-like speaking skills. Some of these skills include speaking for longer turns, having conversations that use few questions, and increasing knowledge of natural expressions. Students will also learn natural reactions to use as they listen during conversations -- an important function of listening as an active participant. Speaking tests will be held twice during the semester so that students can show how well they have mastered these skills.		
授業概要	Students will spend much time in class learning vocabulary and speaking with classmates about everyday life topics. Vocabulary quizzes will be given at the end of each unit. By the end of the course, if students work hard, they will be able to speak English more fluently, accurately, and with more complexity than they could at the beginning of the year. 【SDGs : 4, 17】 【岐阜学関連の授業回 : ⑥, ⑨】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① Unit 5 (Part 1): Talking about breaks ② Unit 5 (Part 2): Free time activities ③ Unit 5 (Part 3): Current & future hobbies ④ Quiz / Unit 7 (Part 1): Recent meals ⑤ Unit 7 (Part 2): Food likes & dislikes ⑥ Unit 7 (Part 3): Exotic foods & eating out ⑦ Quiz / Practice for Speaking Test #1 ⑧ Speaking Test #1 ⑨ Quiz / Unit 4 (Part 1): Travel experiences ⑩ Unit 4 (Part 2): Future travel ideas ⑪ Unit 4 (Part 3): Planning a trip ⑫ Quiz / Unit 8 (Part 1): Five years later ⑬ Unit 8 (Part 2): Discussing life issues ⑭ Unit 8 (Part 3): Dream jobs ⑮ Quiz / Practice for Speaking Test #2 ⑯ 定期試験 (Speaking Test #2) 		
予復習等	【予習】 Study the textbook before coming to class each week. 【復習】 Review the lessons to better remember the material covered in class.		
評価方法	Participation (20%); Vocabulary quizzes & homework (30%); Speaking tests (50%)		
履修条件	1年前期に「英語コミュニケーションIa」を履修していること		
教科書	Conversations in Class (3E). Jerry Talandis Jr. and Bruno Vannieu. Alma Publishing, Kyoto. 2015.		
参考書	http://www.cic-multimedia.com/		

科目名	中級中国語 Intermediate Chinese	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	郭 琦琪	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	国文化を題材とした各本文を勉強する。学生が正確できれいな中国語の発音を覚え、中国語の読む、聞く、話す、書くなどの技能を学び、中級レベルの文法を理解できるようになる。音声、映像などを利用し、現代中国における中国語の使用習慣と中国文化に関する理解を深めていく。本講座は、具体的に学生が本文で学習した語彙、文法の要点、いろいろな場面の表現を中国語で聞いて理解できる、自分で使える、ことを目指すものとする。		
授業概要	授業では、単語、本文の正しい読み方すなわち発音の確認と、基本的文法の学習、あわせて実際の場面を想定した説明、例文の提示、練習を行う。また、勉強する中で学生が本文中の主な文法を理解するだけではなく、今まで習った単語と組み合わせて応用できる力を養うことも目指す。学生が中国語学習を通して、その表現、言い方の日本語との違いを考察し、言語表現に表れる文化的特徴にも学生の興味を促すことも目指す。学習内容を身につけるため、一課終わるごとに練習や小テストを行う予定である。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 第一課 首都北京 ③ 第一課 練習、小テスト ④ 第二課 民族と気候 ⑤ 第二課 練習、小テスト ⑥ 第三課 人口 ⑦ 第三課 練習、小テスト ⑧ 第四課 方言 ⑨ 第四課 練習、小テスト ⑩ 第五課 泰山 ⑪ 第五課 練習、小テスト ⑫ 第六課 祝祭日 ⑬ 第六課 練習、小テスト ⑭ 中国語の発表会 ⑮ 復習 ⑯ 定期試験 		
予復習等	前回の授業で指定した教科書の内容を事前に読んでおくこと。次回の教科書範囲を予習し、新出単語、新出語句、慣用表現、構文を調べておくこと。		
評価方法	授業への参加状況：授業の参加態度30%，小テスト20%，定期試験50%。		
履修条件	なし		
教科書	【楽しく学ぼう やさしい中国語（講読編）】郁文堂 著者：王武曇 張慧娟 朱藝		
参考書	授業の中で随時紹介する		

科目名	中級韓国語 Intermediate Korean	単位数	2
	必選区分	選択	
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「初級韓国語Ⅰ」の学習の上に、学生が韓国語の基本となる文法事項を習得し、韓国語の基本的な表現ができるようになること、基本的な読解ができるようになることを目的とする。具体的には、授業で学ぶ文法事項を習得して、授業やテストで示される文章が読み取れるようになることを目標とする。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：在外公館での翻訳、通訳の経験あり】</p> <p>配布するプリントの学習内容にしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。韓国は漢字語も多く、文法も日本語と似ている点があるため、日本人が韓国語を書いたり話したりすると、日本語式韓国語になりやすいので、韓国語での表現を身につけるようにする。受講者には発話してもらったり、質問に答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。</p> <p>【SDGs：10, 17】</p>		
授業計画	<p>① ～です。～ではありません。</p> <p>② あります。います。ありません。いません。</p> <p>③ ～します。～しますか。</p> <p>④ ～ですか。</p> <p>⑤ 何ですか。いかがですか。</p> <p>⑥ ～なさいます。～してください。～しましょう。</p> <p>⑦ ～を～します。</p> <p>⑧ どこに行きますか。</p> <p>⑨ 時間、数、何が好きですか。</p> <p>⑩ ～しましょうか。～でしょう。</p> <p>⑪ ≒不規則変化</p> <p>⑫ 過去形、ㄹ不規則変化</p> <p>⑬ ～して～（1）고</p> <p>⑭ ～して～（2）아/어/여서</p> <p>⑮ ～から～まで。～だけれども。～しないでください。</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	プリントの中から次回の授業で学ぶ単語の意味を調べ、例文を読んでおくこと。毎回授業の内容の復習に努めること。		
評価方法	定期試験50%、出席状況および授業態度50%		
履修条件	「初級韓国語Ⅰ」の学習内容を習得していること。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	問い合わせに応じて紹介する。		

科目名	メディアイングリッシュⅠ Media EnglishⅠ	単位数	1
	必選区分	選択	
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	服部 肇	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本講は、メディアイングリッシュの入門講座と位置づけられる。そして、メディアイングリッシュの入門講座として、学生が、メディアの諸相、メディアを使用する上の留意点、メディアに用いられる英語の特性等に関して理解を深め、メディアの時代にメディアを賢明に活用することができる文化人になること目的・目標とする。また、英国の新聞に関する理解も深める。		
授業概要	<p>授業は下記の教科書を用いて行なわれる。パラグラフごとに英文の概要を読み取る、英文の詳細を読み取り分析する等、様々な読解活動を通して英語の読解力の伸長を図る。また、語彙や表現力の増強のために、プリントを用いて、教科書の本文に用いられている語句の整理を行なう。さらに、読み取った内容を英語で要約・説明したり、読み取った内容についての自分の意見を英語で述べることも試みる。また、教科書の本文を題材とした英語の聞き取りの練習も行なう。</p> <p>【SDGs：10, 16】</p>		
授業計画	<p>① 入門指導</p> <p>② Lesson 1 Waking up to the Media</p> <p>③ Lesson 2 Introducing the Media Jungle</p> <p>④ Lesson 3 “The Truth, the Whole Truth, and Nothing but the Truth”?</p> <p>⑤ Lesson 4 In Praise of Books</p> <p>⑥ Lesson 5 “The News and Nothing but the News”</p> <p>⑦ Lesson 6 Watching Television: Is Seeing Believing?</p> <p>⑧ Lesson 7 Advertisers and the Power of Persuasion</p> <p>⑨ Lesson 8 The Internet and the Information Age</p> <p>⑩ Lesson 9 Bullies, Mobile Phones and the Internet</p> <p>⑪ Lesson 10 Reading British Newspapers</p> <p>⑫ Lesson 11 Lies, Half truths and Propagandas</p> <p>⑬ Lesson 12 Freedom and Censorship</p> <p>⑭ Lesson 13 NGOs and Campaign Groups: Providing a Voice for the Voiceless</p> <p>⑮ Lesson 14 Bridging the Digital Divide</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	予習：教科書の本文を読み、練習問題に取り組む。 復習：教科書の本文の語句を整理し、本文の要約を試る。		
評価方法			
履修条件			
教科書	『Cutting through the Media Jungle』/著：John Bray他/出版：成美堂		
参考書			

科目名	パラグラフライティング Paragraph Writing	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	未定	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標			
授業概要			
授業計画			
予復習等			
評価方法			
履修条件			
教科書			
参考書			

科目名	インテンシブリーディング Intensive Reading	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	佐竹 直喜	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業の目的は、多くのリーディング演習を通し、英語インプット量を増やし、英語表現や単語力も強化することにある。比較的長い英語の文章を精確に読解でき、英字新聞等も自分で読みこなせる読解力をつける。		
授業概要	<p>①指定のテキストを使い、リーディング力、そしてそのために必要な英語表現力を高める。 ②サイトトランスレーション等を行い、より速い速度で英語を読むための練習をする。 ③文・段落・文章全体の構成についての理解を深め、ライティングにもつなげるための土台を作る。</p> <p>【SDGs : 1, 2, 10, 16】</p>		
授業計画	<p>① オリエンテーション ② Lesson 1 ③ Lesson 2 ④ Lesson 3 ⑤ Lesson 4 ⑥ Lesson 5 ⑦ Lesson 6 ⑧ Lesson 7 ⑨ Lesson 8 ⑩ Lesson 9 ⑪ Lesson 10 ⑫ Lesson 11 ⑬ Lesson 12 ⑭ Lesson 13 ⑮ まとめ、課題提出等</p>		
予復習等	各自学習した教材の復習を行い、土台の積み上げをすること。 また、インターネット等を利用し、いろいろな英語題材に触れ、インプットを増やすこと。		
評価方法	授業参加状況（課題の提出を含む場合がある）40%、 小テスト等 60%		
履修条件			
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング・パス 2（改訂版）（南雲堂） ・必携英語表現集 Essential English Expressions（数研出版） 		
参考書			

科目名	英語のしくみ I	単位数	2
	English Grammar I	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	未定	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標			
授業概要			
授業計画			
予復習等			
評価方法			
履修条件			
教科書			
参考書			

科目名	中国系特論 I	単位数	2
	Specialized Chinese Studies I	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1・2年前期）	科目区分	講義
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本授業は、中国語初級レベル（中国語検定準4級程度）以上の学生を対象とし、中国語検定4級または3級の取得を目指すとともに、より高度な中国語運用能力を身につけることを目的とする。</p> <p>到達目標としては、中国語検定4級または3級に合格できる力を養い、日常的な場面で簡単な中国語による会話ができるようになることを掲げる。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：トヨタ自動車子会社技術職10年（海外赴任経験あり）、中国の水族館副館長5年、ベンチャー企業社外取締役4年。】</p> <p>本授業では、中国語検定4級レベルの問題集を用い、リスニング練習を中心に文法・語彙・読解の基礎を確認しつつ学習を進める。検定問題の形式に慣れるとともに、実践的な聞き取り力と初歩的な会話力の向上を図り、検定合格と日常的なコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>【SDGs：10, 16】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス（検定問題の特徴、対策のコツ、レベルアップなど） ② 中検4級第103回試験問題 ③ 中検4級第104回試験問題 ④ 中検4級第105回試験問題 ⑤ 中検4級第106回試験問題 ⑥ 中検4級第107回試験問題 ⑦ 中検4級第108回試験問題 ⑧ 中検4級第109回試験問題 ⑨ 中検4級第110回試験問題 ⑩ 中検4級第111回試験問題 ⑪ 中検4級第112回試験問題 ⑫ 中検4級第113回試験問題 ⑬ 中検4級第114回試験問題 ⑭ 中検4級第115回試験問題 ⑮ 中検4級第116回試験問題 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】試験問題の筆記部分を事前に解いてみること。</p> <p>【復習】間違えた問題を重点的に見直し、理解を深めること。</p>		
評価方法	出席・受講状況50%、定期試験50%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書			
参考書	なし		

科目名	中国系特論Ⅱ Specialized Chinese StudiesⅡ	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1・2年後期）	科目区分	講義
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本授業は、中国語初級レベル（中国語検定準4級程度）以上の学生を対象とし、中国語検定4級または3級の取得を目指すとともに、より高度な中国語運用能力を身につけることを目的とする。</p> <p>到達目標としては、中国語検定4級または3級に合格できる力を養い、日常的な場面で簡単な中国語による会話ができるようになることを掲げる。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：トヨタ自動車子会社技術職10年（海外赴任経験あり）、中国の水族館副館長5年、ベンチャー企業社外取締役4年。】</p> <p>本授業では、中国語検定3級レベルの問題集を用い、リスニング練習を中心に文法・語彙・読解の基礎を確認しつつ学習を進める。検定問題の形式に慣れるとともに、実践的な聞き取り力と初歩的な会話力の向上を図り、検定合格と日常的なコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>【SDGs：10,16】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス（検定問題の特徴、対策のコツ、レベルアップなど）</p> <p>② 中検3級第103回試験問題</p> <p>③ 中検3級第104回試験問題</p> <p>④ 中検3級第105回試験問題</p> <p>⑤ 中検3級第106回試験問題</p> <p>⑥ 中検3級第107回試験問題</p> <p>⑦ 中検3級第108回試験問題</p> <p>⑧ 中検3級第109回試験問題</p> <p>⑨ 中検3級第110回試験問題</p> <p>⑩ 中検3級第111回試験問題</p> <p>⑪ 中検3級第112回試験問題</p> <p>⑫ 中検3級第113回試験問題</p> <p>⑬ 中検3級第114回試験問題</p> <p>⑭ 中検3級第115回試験問題</p> <p>⑮ 中検3級第116回試験問題</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】試験問題の筆記部分を事前に解いてみる。</p> <p>【復習】間違えた問題を重点的に見直し、理解を深める。</p>		
評価方法	出席・受講状況50%、定期試験50%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書			
参考書	なし		

科目名	韓国系特論Ⅰ Specialized Korean StudiesⅠ	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1・2年前期）	科目区分	講義
担当者	孫 ミギョン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本講義は、韓国語中級以上の学習者を対象に、韓国社会や文化に関する多様なテキストを韓国語で読み、理解する力を養うことを目的とする。韓国語の語彙・表現・文構造に対する理解を深めるとともに、社会的・文化的背景を踏まえた読解を通じて、言語と社会を総合的に捉える視点を身につけることを到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公的機関等における通訳・翻訳の実務経験あり】</p> <p>本講義では、韓国社会や文化を題材とした記事、エッセイ、記録文など、さまざまな種類の韓国語テキストを用いて授業を行う。中級レベルの韓国語学習者を対象に、テキスト読解を中心として語彙や表現の意味を確認し、文の構造や文章の流れを理解する練習を行う。また、テキストに含まれる社会的・文化的背景についても解説し、言語学習と社会理解を結びつけながら、韓国社会への理解を深める。</p> <p>なお、授業の進度や受講生の理解度に応じて、扱う資料や配布プリントの内容を一部調整する場合があります。</p> <p>【SDGs：10,16】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス：講義の目的、進め方など</p> <p>② 韓国社会に関するテキスト読解①</p> <p>③ 韓国社会に関するテキスト読解②</p> <p>④ 韓国社会に関するテキスト読解③</p> <p>⑤ 韓国社会に関するテキスト読解④</p> <p>⑥ 韓国社会に関するテキスト読解⑤</p> <p>⑦ 時事記事の読解①</p> <p>⑧ 時事記事の読解②</p> <p>⑨ 時事記事の読解③</p> <p>⑩ 時事記事の読解④</p> <p>⑪ 時事記事の読解⑤</p> <p>⑫ エッセイ・記録文の読解①</p> <p>⑬ エッセイ・記録文の読解①</p> <p>⑭ エッセイ・記録文の読解①</p> <p>⑮ エッセイ・記録文の読解①</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】次回扱うテキストの語彙の意味を調べ、全体に目を通しておくこと。</p> <p>【復習】授業で扱ったテキストを振り返り、重要な表現や内容を整理すること。</p>		
評価方法	出席状況および授業への参加状況 50% レポート 50%		
履修条件	入学時に韓国語中級レベルの能力のある学生（検定試験合格者、高校での韓国語単位の修得者などを対象に開講する。受講希望者は、担任教員に相談すること。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	必要に応じて紹介する。		

科目名	韓国系特論Ⅱ	単位数	2
	Specialized Korean StudiesⅡ	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1・2年後期）	科目区分	講義
担当者	孫 ミギョン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義は、韓国語中級以上の学習者を対象に、韓国社会や文化に関する多様なテキストを韓国語で読み、理解する力を養うことを目的とする。韓国語の語彙・表現・文構造に対する理解を深めるとともに、社会的・文化的背景を踏まえた読解を通じて、言語と社会を総合的に捉える視点を身につけることを到達目標とする。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公的機関等における通訳・翻訳の実務経験あり】</p> <p>本講義では、韓国社会や文化を題材とした記事、エッセイ、記録文など、さまざまな種類の韓国語テキストを用いて授業を行う。中級レベルの韓国語学習者を対象に、テキスト読解を中心として語彙や表現の意味を確認し、文の構造や文章の流れを理解する練習を行う。また、テキストに含まれる社会的・文化的背景についても解説し、言語学習と社会理解を結びつけながら、韓国社会への理解を深める。</p> <p>なお、授業の進度や受講生の理解度に応じて、扱う資料や配布プリントの内容を一部調整する場合があります。</p> <p>【SDGs：10, 16】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス：講義の目的、進め方など</p> <p>② 韓国社会に関するテキスト読解 応用①</p> <p>③ 韓国社会に関するテキスト読解 応用②</p> <p>④ 韓国社会に関するテキスト読解 応用③</p> <p>⑤ 韓国社会に関するテキスト読解 応用④</p> <p>⑥ 韓国社会に関するテキスト読解 応用⑤</p> <p>⑦ 時事・社会テーマに関する読解①</p> <p>⑧ 時事・社会テーマに関する読解②</p> <p>⑨ 時事・社会テーマに関する読解③</p> <p>⑩ 時事・社会テーマに関する読解④</p> <p>⑪ 時事・社会テーマに関する読解⑤</p> <p>⑫ 現代韓国を理解するための読解資料①</p> <p>⑬ 現代韓国を理解するための読解資料②</p> <p>⑭ 現代韓国を理解するための読解資料③</p> <p>⑮ 読解内容にもとづく発表・意見交換</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】次回扱うテキストの語彙の意味を調べ、全体に目を通しておくこと。</p> <p>【復習】授業で扱ったテキストを振り返り、重要な表現や内容を整理すること。</p>		
評価方法	出席状況および授業への参加状況 50% レポート 50%		
履修条件	入学時に韓国語中級レベルの能力のある学生（検定試験合格者、高校での韓国語単位の修得者などを対象に開講する。受講希望者は、担任教員に相談すること。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	必要に応じて紹介する。		

科目名	観光概論	単位数	2
	Tourism Studies	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	安田 幹司	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	学生が本講義を通じて「観光」と社会生活や産業活動との関係性を考察し、その経済的役割についての理解を深め、観光が経済、社会、文化、環境に与える影響や観光地づくりや観光ビジネスの基本的な考え方を学び、観光を産業、社会現象、地域戦略として捉える基礎的視点を養うことを目的とする。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：担当教員は30年以上に渡り大手旅行会社にて旅行営業、企画、手配等旅行業務全般に精通し、中部地域統括営業部長、インバウンド担当役員など国内旅行、海外旅行、インバウンド業務全般に渡り幅広く実務及び管理職並びに経営者経験を活かして教鞭に当たった。海外での勤務経験も長くグローバル事業にも精通している】</p> <p>本講義では観光とは何かを多角的に学ぶ科目です。観光の定義・歴史から始まり、観光産業の構造、観光政策、地域振興、インバウンド、持続可能な観光（サステイナブル・ツーリズム）などを体系的に理解します。同時に岐阜県における豊富な観光資源を活かした観光戦略や観光を活かした地方創生についても学びを深めていく。またグローバルな視点から見た日本や岐阜県の観光についても授業を通じて学んでいく。</p> <p>【SDGs：3, 9, 11】</p> <p>【岐阜学関連の授業回：⑩, ⑬, ⑭】</p>		
授業計画	<p>① オリエンテーション-ツーリズム産業の現状</p> <p>② 観光を学ぶ意義、観光の様々な効果、観光に関わる言葉</p> <p>③ 観光を構成する要素、観光の事業のしくみ、観光資源と観光対象</p> <p>④ 観光産業の構成と特徴</p> <p>⑤ 様々な観光ビジネス-旅行業</p> <p>⑥ 様々な観光ビジネス-宿泊産業</p> <p>⑦ 様々な観光ビジネス-交通運輸業</p> <p>⑧ 様々な観光ビジネス-テーマパーク、スキー場、展示鑑賞施設、土産品業</p> <p>⑨ 観光と情報</p> <p>⑩ 観光政策と観光行政-岐阜県の観光推進計画</p> <p>⑪ 観光のマーケティング</p> <p>⑫ 旅の歴史とこれからの旅行-サステイナブルツーリズム</p> <p>⑬ 観光と国際経済・社会・文化-インバウンドと異文化理解、岐阜県のインバウンド観光</p> <p>⑭ 地域観光コンテンツ造成(個人ワーク)</p> <p>⑮ まとめ</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】授業に関わるテーマについて事前に渡すプリントを通じて事前学習した上で授業に出席すること</p> <p>【復習】授業で学んだことを踏まえ、実際に「旅」に出ることにより自分の目で観光がどのように地域経済に関わっているのか、人間形成にどんな影響を与えているのかを考察する</p>		
評価方法	定期試験(70%)、個人ワーク(20%)に出席状況等(10%)を加味して評価する。		
履修条件	なし		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	『観光学基礎 観光に関する14章』/ 出版：株式会社JTB総合研究所		

科目名	地域研究概論 Area Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	民俗宗教（民間信仰）の調査、研究のさまざまな事例を通して地域研究の方法や視点を学ぶとともに、それぞれの地域の人々が伝えてきた精神世界を理解することを旨とする。具体的には、学生が民俗宗教に関する調査方法や基礎知識を習得するとともに、それぞれの地域の人々が伝えてきた精神世界を理解するために民俗宗教研究が提出してきた見方、考え方を理解し、それぞれの事例について民俗宗教研究に基づく見方が説明できるようになることを目標とする。		
授業概要	最初に、地域研究を通じて学ぶ民俗宗教（民間信仰）の概念について紹介する。次に、地域研究の例として各地で行われた民俗宗教研究をとりあげる。具体的には、本学周辺地区（一日市場地区）で行われている祭礼を紹介し、現状での課題を検討する。次いで、沖縄地方の祭礼と民間宗教者、日本の中国地方や東北地方での祭礼の様相や、地域の人々の要望に応える民間宗教者について紹介し、人間と神霊との関係性、民間宗教者の役割を検討する。さらに、韓国での民間宗教者についても紹介する。 【SDGs：10,16】 【岐阜学関連の授業回：②,③】		
授業計画	① 地域研究、民俗宗教（民間信仰）について ② 大学周辺（一日市場地区）での祭礼 ③ 大学周辺（一日市場地区）での祭礼の課題 ④ 祭礼と精霊憑依 ⑤ 沖縄伊良部島での祭礼 ⑥ 沖縄伊良部島での民間宗教者 ⑦ 南西諸島（奄美、沖縄、先島諸島）の民俗宗教 ⑧ 日本の東北地方の民間宗教者 ⑨ 日本の東北地方での民間宗教者と仏教僧侶との関係 ⑩ 民俗宗教研究から見た宗教者の分類 ⑪ 精霊憑依（憑霊）とシャーマニズム ⑫ インドネシア・バリ島での事例 ⑬ 韓国での事例（1）：韓国での民間宗教者 ⑭ 韓国での事例（2）：珍島での民間宗教者 ⑮ 韓国での事例（3）：儒教祭祀 ⑯ 定期試験		
予復習等	配布されたプリントを整理し、次の時間に使用するプリントの内容を確認しておくこと。授業後は学んだ内容のノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート50%、定期試験50%		
履修条件	比較宗教学、文化交流論を合わせて受講するのが望ましい。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	必要に応じて紹介する。		

科目名	比較宗教学 Comparative Religion	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	世界の人々と生きる私たちは、さまざまな宗教と出会う。宗教は世界を知るための窓の一つとなる。世界各地で営まれているさまざまな宗教について、比較宗教学の観点から学ぶ。具体的には、学生が比較宗教学の観点から、宗教に関する基礎知識を修得するとともに、それぞれの宗教の特徴、各宗教間の異同や関係が説明できるようになることを目標とする。		
授業概要	最初に、宗教学、比較宗教学という学問の特徴や、信仰としての宗教ではなく文化としての宗教の概念について学ぶ。次に宗教の原初形態（宗教の起源）、宗教と呪術との関係、さまざまな宗教をグループ分けする際の考え方について学ぶ。続いて、比較宗教学が提出してきた宗教の見方に基づいて、宗教的実在観（各宗教が考える本当のもの、真実の存在）、宗教的人間観（各宗教が人間を如何にとらえているか）、宗教的世界観（各宗教が世界をどのようにとらえているか）について学ぶ。さらに宗教儀礼、宗教集団、宗教体験、宗教の役割についても学ぶ。 【SDGs：10,16,17】		
授業計画	① なぜ宗教を学ぶのか。宗教、宗教学とは。 ② 宗教の原初形態（1） ③ 宗教の原初形態（2） ④ 宗教と呪術 ⑤ 宗教の諸類型（1） ⑥ 宗教の諸類型（2） ⑦ 宗教的実在観（1） ⑧ 宗教的実在観（2） ⑨ 宗教的人間観（1） ⑩ 宗教的人間観（2） ⑪ 宗教的世界観（1） ⑫ 宗教的世界観（2） ⑬ 宗教体験 ⑭ 宗教集団 ⑮ 宗教儀礼 ⑯ 定期試験		
予復習等	配布されたプリントを整理し、次の授業時間に学ぶ内容を確認しておくこと。授業後は学んだ内容のノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート50%、定期試験50%		
履修条件	地域研究概論、文化交流論を合わせて受講することが望ましい。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	『宗教学入門』／著・脇本平也／出版・講談社（講談社学術文庫）		

科目名	ホテル論 Hotel Management	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	安田 幹司	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	学生が本講義を通じ、ホテル産業を観光産業の中核として位置づけ、ホテルの役割・機能・経営の基礎を体系的に理解することを目的とする。ホテルの歴史的発展、宿泊形態の多様化、組織構造、サービスマネジメント、収益構造、人材育成ならびに最新の業界動向を学ぶことでホテルを単なる宿泊施設でなく、総合的なサービス産業として捉える視点を養う。また観光・地域社会・国際交流との関係性やサステナビリティ、DX、インバウンド対応といった現代的課題を踏まえ、実務と理論を結び付けて考察する力を身に付けることを目的とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：担当教員は30年以上に渡り大手旅行会社にて旅行営業、企画、手配等旅行業務全般に精通し、中部地域統括営業部長、インバウンド担当役員など国内旅行、海外旅行、インバウンド業務全般に渡り幅広く実務及び管理職並びに経営者経験を活かして教鞭に当たる。海外での勤務経験も長くグローバル事業にも精通している】 本講義ではホテルの定義や役割、歴史及び宿泊施設の種類について学び、ホテル産業の基礎理解を深めます。併せてホテルの組織や部門構成及びホテル経営の基礎並びにサービスとホスピタリティ、ホテルと社会・地域との繋がりについても学びます。最後に現代ホテル業界が抱える課題について議論を深めていく。 【SDGs：3, 9, 11】 【岐阜学関連の授業回：④, ⑫, ⑬】		
授業計画	① オリエンテーション-宿泊産業の現状 ② ホテルの定義と分類 ③ 欧米におけるホテルの歴史 ④ 日本におけるホテルの歴史 ⑤ ホテル業の経営形態 ⑥ ホテルの組織構造 ⑦ 宿泊部門の基礎知識（1） ⑧ 宿泊部門の基礎知識（2） ⑨ 料飲部門と宴会部門の基礎知識 ⑩ 調理部門と営業部門の基礎知識 ⑪ 管理部門の基礎知識 ⑫ ホテルのマーケティング ⑬ ホテル産業の課題と戦略 ⑭ ホテルのホスピタリティとホテルスタッフに求められる能力 ⑮ まとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】宿泊産業や観光産業のニュースを読み、業界の動向を把握すること。 【復習】配布資料を振り返り、要点を整理すること。		
評価方法	定期試験(70%)、個人ワーク(20%)に出席状況等(10%)を加味して評価する。		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	『ホテル概論』/ 出版：株式会社JTB総合研究所		

科目名	英語表現 I English Expression I	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本授業は、英語コミュニケーション能力の4技能のうち、特に「聞く」「話す」技能の運用能力向上に焦点を当てる。学生は信頼できる情報源から英語で情報を収集し、得られた情報を自分の言葉で発信することができるようにする。テキストではCNN放送から選ばれたビジネスをテーマとしたニュース映像を視聴し、①ナチュラルスピードで話される内容を理解できること、②ニュース内容を要約して自分の言葉で伝えることができることを到達目標とする。		
授業概要	本授業では、世界最大のニュース専門メディアであるCNN放送を教材とし、労働、雇用などの社会情勢に関するニュースやビジネストレンド、ライフスタイルに影響のあるハイテクなどのニュース映像を視聴し、理解できるようにする。学生は「聞く」技能のトレーニングとしてシャドウイングを行い、ニュースのスピードに慣れるようにする。またCNNの他、NHK World、BBC、Voice of Americaなど信頼あるニュースサイトから情報収集を行い、各自が興味のある話題について自分の言葉で要約して発表を行う。 【SDGs：4】		
授業計画	① ガイダンス Unit 1 ② unit 2, Unit 3 ③ unit 4, Unit 5 ④ Unit 6, Unit 7 ⑤ Review, Research ⑥ Presentation ⑦ unit 8, Unit 9 ⑧ unit 10, Unit 11 ⑨ Review, Research ⑩ Presentation ⑪ unit 12, Unit 13 ⑫ unit 14, Unit 15 ⑬ Review, Research ⑭ Research, Rehearsal ⑮ Presentation ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】テキストの該当範囲の問題を解いておく。（30分） 【復習】音声ストーリーミング配信を使って、復習する。単語リストを作る。（60分）		
評価方法	出席状況・授業態度20%、発表20%、小テスト20%、定期試験40%		
履修条件	なし		
教科書	CNN Short News for Listening Business/著：JACET関西支部教材開発研究会/ 出版：朝日出版社		
参考書	なし		

科目名	英語表現Ⅱ	単位数	1
	English Expression II	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	松家 鮎美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>本授業の目的は、旅行中に遭遇するさまざまなシチュエーションで役立つ英語表現を学び、実際に使える会話スキルを向上させることです。空港やホテル、観光地での会話をスムーズに行い、旅行先で英語を使いこなす力を養成します。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：①航空会社における国際線の乗務 ②米国テレビ局での勤務】 本コースでは、旅行に必要な基本的な英語表現を学び、実際の旅行シーンを想定したロールプレイやディスカッションを通じて、英語表現力を強化します。交通機関、宿泊施設、観光地でのやり取りに必要なフレーズや語彙を中心に学び、旅行に関するさまざまなトピックについて会話をします。授業後、学んだ表現を実際の旅行で活用できるよう、シミュレーションを行います。 【SDGs：④,⑩,⑰】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス、旅行の準備と出発 ② 空港での会話 ③ 飛行機内での会話 ④ 旅行先の交通手段 ⑤ ホテルのチェックイン ⑥ ホテルでの問題解決 ⑦ レストランでの注文 ⑧ 観光地での案内 ⑨ 買い物 ⑩ トラブルと緊急時の対応 ⑪ 観光地での移動 ⑫ 友達を作る・交流する ⑬ 体験をシェアする ⑭ 帰国手続きと空港での会話 ⑮ 総まとめとロールプレイ ⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>[予習] 授業で指示された内容に基づき、事前課題を進めておくこと。 [復習] ワークシートの練習問題を解いたり、指示された動画を視聴するなどして、学んだ内容を確認・復習すること。</p>		
評価方法	履修態度20%、パフォーマンス20%、定期試験60%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	授業中に適宜指示をする。		

科目名	検定英語演習Ⅱ	単位数	1
	Skills for English Proficiency Exams II	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	佐竹 直喜	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>TOEIC650～700点獲得を目指して必要な英語力を身につけることを目的とする。 また英検準1級の問題にも挑戦する。 TOEICに必要な英単語力の強化、リスニング演習、リーディング演習を行い、指定のテキストにも毎時間取り組む。 また、ぜひTOEICのための英語の勉強にならず、TOEICを活用し英語を勉強するという姿勢を身につけたい。</p>		
授業概要	<p>授業では、TOEICによく取り上げられるテーマを基にリスニング、リーディングの演習を行い、基礎的な英語力の向上を図るとともに、TOEIC各パートのスコアアップを目指す。英単語力の強化、リスニング演習、リーディング演習を行い、指定のテキストにも毎時間取り組み、答え合わせや説明を行う。 また、指定テキストの進度等を考慮しながら、演習、小テスト、課題提出に取り組む。 【SDGs：4,5,9】</p>		
授業計画	<p>① オリエンテーション TOEICまたは英検の模擬問題等でウォームアップを行う。 ② Unit 1 ③ Unit 2 ④ Unit 3 ⑤ Unit 4 ⑥ Unit 5 ⑦ リスニング演習 ⑧ Unit 6 ⑨ Unit 7 ⑩ Unit 8 ⑪ リスニング演習 ⑫ Unit 9 英検準1級演習 ⑬ Unit 10, 英検準1級演習 ⑭ Unit 11, 英検準1級演習 ⑮ まとめ</p>		
予復習等	<p>各自学習した教材の復習を行い、土台の積み上げをすること。 また、インターネット等を利用して、いろいろな英語題材に触れ、インプットを増やすこと。</p>		
評価方法	授業参加状況（課題の提出を含む場合がある）40% 小テスト等 60%		
履修条件	なし		
教科書	<p>・TOEIC® L&R TEST への総合アプローチ -Advanced-（成美堂） ・TOEIC L&Rテスト英単語ターゲット1100（旺文社）</p>		
参考書	なし		

科目名	国際関係概論 International Relations	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	藤田 怜史	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>本講義は、きわめて不安定な現在の国際関係に関する理解を深めることを目的とする。特にウクライナやパレスチナ問題などに焦点を当て、国際関係の重要問題への多面的な理解を深める。具体的な到達目標は以下のとおり。</p> <p>1：受講生は、国際関係の歴史を概観することで、現在の諸問題の背景を理解することができる。</p> <p>2：受講生は、国際関係の重大問題に対して多面的な理解ができる。</p> <p>3：受講生は、プレゼンテーション等を通じて、理解した内容をわかりやすく発信できる。</p>		
授業概要	<p>2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻、2023年10月に本格化したパレスチナ（ハマス）とイスラエルの武力衝突、そして台湾をめぐる緊張の継続など、いまの世界はきわめて不安定な状態にある。受講生は本講義を通して、世界がなぜそうした状態に陥ったのかを深く理解し、世界がこれからどのような方向に進んでいくかを考察することを目指す。</p> <p>本講義は大きく2つのパートに分かれる。前半は国際関係の歴史を概観することで、国際関係を通史的かつ構造的に理解する。後半は、ウクライナ問題やパレスチナ問題など、国際関係の重大問題のなかから受講生がテーマを選択し、研究課題を設定し、課題への問いを提示するプレゼンテーションを行う。ディスカッションなど受講生の能動的な授業参加を期待する。（なお、受講生の人数などにより計画が変更になることもありうる。）</p> <p>【SDGs：1, 4, 5, 10, 16, 17】</p>		
授業計画	<p>① イントロダクション：「国際関係論」とはなにか</p> <p>② 「ヨーロッパ共和国」の成立と拡大</p> <p>③ 帝国主義の時代</p> <p>④ 第一次世界大戦</p> <p>⑤ 第二次世界大戦</p> <p>⑥ 米ソ冷戦の時代</p> <p>⑦ 多極化する世界</p> <p>⑧ 現代の諸問題：ウクライナ、パレスチナ、米中対立</p> <p>⑨ 前半のまとめ／後半の進め方、テーマ設定の確認</p> <p>⑩ リサーチ／プレゼンテーション 文献読解の報告①</p> <p>⑪ リサーチ／プレゼンテーション 文献読解の報告②</p> <p>⑫ リサーチ／プレゼンテーション 文献読解の報告③</p> <p>⑬ リサーチ／プレゼンテーション 研究成果報告①</p> <p>⑭ リサーチ／プレゼンテーション 研究成果報告②</p> <p>⑮ リサーチ／プレゼンテーション 研究成果報告③</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>予習：事前に配布資料がある場合、それを読んでから講義に臨む。プレゼンの準備をする。</p> <p>復習：講義内容を整理し、わかりにくかったところなどを次回質問する。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度（30%）、定期試験or期末レポート（70%）		
履修条件	特に後半では活発な意見交換を求める。		
教科書	なし。資料を配布する。		
参考書	『大学で学ぶ西洋史 [近現代]』／著：小山哲ほか編著／ミネルヴァ書房 『論点・西洋史学』／著：金澤周作監修／ミネルヴァ書房		

科目名	世界が見る日本 Japan Through the World's Eye	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	佐竹 直喜	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>・指定したテキストおよび配布資料を批判的に読み分析し、世界と日本の関係から「世界が見る日本」について議論し考えを深める。海外の人々に映る日本の姿がどのようなものであるのか、そういったことについて自らの考えを確立したい。</p> <p>・自らの調べ学習を通し、発表・交流をすることで世界から日本がどう見えるかということについて幅広い見識を持つことを目指す。</p>		
授業概要	<p>①英字新聞等の記事や英語のニュースメディアを通し、日本で起きている出来事を英語で理解し、インプットする。授業は英語の読解、聞き取り、インプットすべき英語表現の暗記を伴う。海外に積極的に発信できそうな日本についての知識を増やす。</p> <p>②指定したテキスト、配布資料を読み込み、世界の中での日本の位置づけについて考えを交わし、理解を深める。</p> <p>③テーマを設定し、調べ学習を行い、世界から日本がどう見えるかについて発表する。</p> <p>【SDGs：17】</p>		
授業計画	<p>① オリエンテーション</p> <p>② 英字新聞読解、テキスト輪読</p> <p>③ 英字新聞読解、テキスト輪読</p> <p>④ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑤ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑥ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑦ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑧ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑨ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑩ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑪ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑫ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑬ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑭ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑮ まとめ</p>		
予復習等	<p>・普段から日本国内外の時事ニュース等に関心を深め情報をインプットする。</p> <p>・指定テキスト、配布資料を授業内外で何度も読み込む。</p>		
評価方法	授業参加状況（発表等を含む場合がある）60%、レポート提出40%		
履修条件			
教科書	高市 早苗(2021)『美しく、強く、成長する国へ。』（ワック）		
参考書			

科目名	地域振興論 Regional Development	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	孫 ミギョン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	地域振興は、人々の暮らしをより豊かにすることを目的として、地域社会の経済的・文化的・社会的・政治的條件の改善を通じ、地域固有の魅力を引き出す取り組みである。本授業では、地域振興に関する基本概念および具体的事例の考察を通じて、岐阜地域の魅力と課題を自ら分析し、振興のあり方を主体的に考察する力を養うことを目的とする。		
授業概要	本講義では、地域振興に関わる基本的な概念を整理するとともに、国内外における地域振興の具体的事例を取り上げて考察する。講義およびグループワークを通じて、岐阜県・岐阜市の現状や地域が抱える課題、これまでの取り組みを調査・分析し、今後の地域振興の在り方や具体的な解決策について考察する。 【SDGs：9, 10, 17】 【岐阜学関連の授業回：⑬, ⑭, ⑮】		
授業計画	① ガイダンス ② 地域と文化、そして空間：地域概念、地域分類、地域文化など ③ 地域文化と地域文化資源 ④ 都市化：都市化の種類、都市景観 ⑤ 都市再生：概念と戦略、ジェントリフィケーションなど ⑥ 地域開発と政策：地域開発の定義、発展戦略など ⑦ 地域文化資源開発の種類 ⑧ 日本の文化資源(世界文化遺産、世界自然遺産、世界記録遺産など) ⑨ 国内・外における地域文化資源の活用事例① ⑩ 国内・外における地域文化資源の活用事例② ⑪ 国内・外における地域文化資源の活用事例③ ⑫ 国内・外における地域文化資源の活用事例④ ⑬ グループ発表：文化資源と地域振興① ⑭ グループ発表：文化資源と地域振興② ⑮ グループ発表：文化資源と地域振興③ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】新聞・雑誌・インターネット等を通じて、地域振興や地域文化に関する記事や事例を探し、授業で扱うテーマについて事前に目を通しておくこと。 【復習】授業内容を振り返り、重要な概念や事例を整理したうえで、自身の考えを簡潔にまとめること。		
評価方法	出席状況・授業態度20%、グループ発表30%、定期試験(レポート)50%(授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない)		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	国際協力論 International Cooperation	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	荒木 隆人	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	最近、「SDGs」や「持続可能」という言葉をよく聞くようになっている。「SDGs」や「持続可能」といったことをキーワードに、本講義では、開発援助、人権問題、地球環境問題、平和構築の4つの課題をもとに国際協力のあり方を学ぶ。到達目標としては、途上国の貧困問題、基本的人権の問題、地球温暖化、内戦及び地域紛争の防止や紛争後の復興支援といった課題について十分に理解し、説明できることである。		
授業概要	2015年、国連総会において持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)が採択され、日本も積極的にその推進に取り組んでいる。SDGsの具体的な目標の中でも、途上国の貧困・飢餓に関わる問題(南北問題と政府開発援助の可能性)、基本的人権の問題(第二次大戦後の国際人権レジームの形成)、地球温暖化に代表される地球環境問題(二酸化炭素排出削減への取り組み等)、内戦及び地域紛争の防止や紛争後の復興支援(国連平和維持活動等)への取り組みは中心的なものである。それゆえ、本講義では開発援助、人権問題、地球環境問題、平和構築の4つの分野から国際協力の在り方を検討する。それらを考えることは、以下のようにSDGsのすべての項目を考えることにつながる。 【SDGs：1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17】		
授業計画	① ガイダンス ② 貧困問題と開発援助(南北問題と持続可能な開発) ③ 貧困問題と開発援助(政府開発援助) ④ 貧困問題と開発援助(日本のODA) ⑤ 貧困問題と開発援助(ODAの展望) ⑥ 人権問題と国際協力(戦後の人権保護) ⑦ 人権問題と国際協力(冷戦期における人権保護) ⑧ 人権問題と国際協力(冷戦後における人権保護) ⑨ 地球環境問題と国際協力(地球環境問題とは) ⑩ 地球環境問題と国際協力(地球環境レジーム1) ⑪ 地球環境問題と国際協力(地球環境レジーム2) ⑫ 平和構築の国際協力(平和維持) ⑬ 平和構築の国際協力(平和構築) ⑭ 平和構築の国際協力(平和構築と日本の協力1) ⑮ 平和構築の国際協力(平和構築と日本の協力2) ⑯ まとめ		
予復習等	【予習】講義内で紹介する教科書等で各回の講義で扱う内容について予習をすること 【復習】講義で配布された資料を理解した上で、一層理解を深めるために参考書等で調べること		
評価方法	小課題20%、期末レポート80%		
履修条件	なし		
教科書	『国際政治学をつかむ』／著・村田晃嗣ほか／出版：有斐閣、ISBN 978-4641177222		
参考書	『国際協力ーその新しい潮流』／著：下村恭民／出版：有斐閣、その他の参考書は講義内で指示する。		

科目名	ヨーロッパ文化論 European Cultural Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	鈴木 辰一	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	ヨーロッパの文化を研究する上で基礎となる知識の習得を目標とします。授業の前半では、ヨーロッパの概要、ヨーロッパに存在する国々に関する知識の習得を目指します。後半では、ヨーロッパの文化的基盤を構成する古典文献の講読を通じて、ヨーロッパの人々と共通の文化的な知識を身につけます。これらを通して、世界の人々とコミュニケーションをとる際に間接的に役立てることができる知識の習得を目指します。		
授業概要	この授業ではまず、ヨーロッパ全体像とそれを構成する国々について学ぶ際に必要な基本事項を概観します。その際、グループでヨーロッパの国々のことを調べ、発表していただく機会を設けます。次に、ヨーロッパの文化的基盤となっている古典テキストを講読します。ギリシア・ローマ神話と聖書に出てくるよく知られたエピソードを、英語で書かれた文献を用いて講読します。本授業はオンデマンドで実施します。 【SDGs：17】		
授業計画	① ガイダンス ② ヨーロッパの国々(1) ③ ヨーロッパの国々(2) ④ ヨーロッパの歴史 ⑤ ヨーロッパの文学(1) ⑥ ヨーロッパの文学(2) ⑦ ヨーロッパの文学(講読) ⑧ ヨーロッパの芸術 ⑨ ヨーロッパの芸術(講読) ⑩ 聖書講読(1) ⑪ 聖書講読(2) ⑫ 聖書講読(3) ⑬ ギリシャ・ローマ神話(1) ⑭ ギリシャ・ローマ神話(2) ⑮ ギリシャ・ローマ神話(3)		
予復習等	【予習】指定された資料を熟読すること 【復習】学んだトピックについて、資料を調べ、理解を深めること		
評価方法	授業姿勢20%、講読課題(1)20%、講読課題(2)20%、期末レポート40%		
履修条件	英語で書かれた資料をきちんと読もうとする姿勢を持っていること(英語力は問わない)		
教科書	初回の授業で提示します		
参考書	初回の授業で提示します		

科目名	中国文化受容論 Acceptance of Chinese Culture	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	異文化を受容する際、どのような視点でそれが行われるのかを、日中の古典文学の比較から考える。唐の玄宗と楊貴妃の物語を扱った『唐物語』の内容を、原典となった中国の古典文学作品の内容と比較することで、何が書かれているか、どのような情報が取り入れられているか、逆にどのような情報が取り入れられていないか、またその理由などを理解し、論理的な思考が組み立てられるようになることを目的とする。そこから実生活において、身近にあふれる情報を分析的に見つめ冷静に判断する力を養うことを到達目標とする。		
授業概要	【実務経験：なし】 日中の古典文学作品を読み比べる作業から、文化の受容について、作品成立の背景や特徴、作品の狙いや作者の意図などから分析し、ものごとの本質を見出す。具体的には中国の故事(お話)を日本語に翻訳した物語集『唐物語』(12世紀後半成立)に収められた「玄宗皇帝と楊貴妃の語(こと)」をゆっくり味わって講読し、そのもととなった中国古典文学作品『長恨歌』・『長恨歌伝』、『楊太真外伝』に表現された楊貴妃像を比較・分析する。そして「なぜそのように表現されているのか」を作者の意図や時代背景などから考える。そのことによって、それぞれの視点から楊貴妃という人物の本質に迫ろうとするものである。 【SDGs：4,10】		
授業計画	① ガイダンス、『唐物語』の概要 ② 『唐物語』講読【1】 ③ 楊貴妃の魅力についての比較(1) ④ 楊貴妃の魅力についての比較(2) ⑤ 『唐物語』講読【2】 ⑥ 楊貴妃の政治性についての比較(1) ⑦ 楊貴妃の政治性についての比較(2) ⑧ 楊貴妃の政治性についての比較(3) ⑨ 『唐物語』講読【3】 ⑩ 楊貴妃の奔放さについての比較(1) ⑪ 楊貴妃の奔放さについての比較(2) ⑫ 『唐物語』講読【4】 ⑬ 『唐物語』講読【5】 ⑭ 『長恨歌』鑑賞—比較文学的視点から—(1) ⑮ 『長恨歌』鑑賞—比較文学的視点から—(2) ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40%、授業時に書いてもらうメモ20%、定期試験40%		
履修条件	なし		
教科書	プリントを配布する		
参考書	必要に応じて配布プリント、映像教材を用いる		

科目名	異文化コミュニケーション Cross-Cultural Communication	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	松家 鮎美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本授業は、日常的な英会話の基礎力を高めることを主な目的とし、英語で「自分のことを述べる」「相手に質問する」「会話を続ける」ための実践的な力を養う。また、会話のテーマを通して世界の挨拶、食事、学校生活、コミュニケーションのスタイルなど、異文化の違いにも自然に触れ、グローバルな視野を広げることを目指す。		
授業概要	【担当者の実務経験：①航空会社における国際線の乗務 ②米国テレビ局での勤務】 本授業は、英語によるコミュニケーション力を高めるとともに、世界の文化や価値観に触れながら異文化理解を深めることを目的とする英会話中心の科目です。英語でのやり取りを通して、自分の考えを伝える力や相手を理解する姿勢を養い、異なる文化背景をもつ人々との円滑なコミュニケーションに必要な視点を身につける。ペアワークや短い会話活動を重ねることで、英語を使って交流する力と、文化の多様性を理解する力の双方を伸ばすことを目指す。 【SDGs：④, ⑩, ⑰】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 世界の挨拶と自己紹介 ③ 友達とのSmall Talk ④ 食文化を話題に ⑤ 会話を続けるスキル ⑥ 趣味について話す ⑦ 学校生活を語る ⑧ 道案内と街の文化 ⑨ 旅行・行きたい場所/観光の文化 ⑩ 家族を紹介する会話/家族観の文化差 ⑪ 買い物・注文の会話/店員との距離感の文化 ⑫ 時間の感覚・約束の文化 ⑬ 人との距離・コミュニケーションスタイル ⑭ 言葉以外のコミュニケーション ⑮ 総まとめ ⑯ 定期試験 		
予復習等	[予習] 授業で指示された内容に基づき、事前課題を進めておくこと。 [復習] ワークシートの練習問題を解いたり、指示された動画を視聴するなどして、学んだ内容を確認・復習すること。		
評価方法	履修態度20%、パフォーマンス20%、定期試験60%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	授業中に適宜指示をする。		

科目名	英語表象文化 Culture of English Representation	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	鈴木 辰一	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	ウィリアム・シェイクスピアによる劇作品を様々な観点から考察することを通じて、様々な文化事象を解釈することを経験し、解釈という行為を意識しながら行えることを目指します。受講者同士、解釈についての議論を通じて、多様な視点から物事を解釈する姿勢、自らとは異なる視点や解釈を肯定的に受け入れる姿勢を身につけることを目標とします。		
授業概要	この授業では16世紀末～17世紀初頭にかけてイングランドで活躍した劇作家ウィリアム・シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』、『ヴェニスの商人』、『テンペスト』などを取り上げます。原作の台詞の音読などの活動を通して、様々な視点から戯曲を眺め、多様な視点からの解釈を試みます。 【SDGs：17】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス/シェイクスピア、表象文化について ② シェイクスピアについて ③ 『ハムレット』 To be, or not to be ④ 『マクベス』 Tomorrow, and tomorrow, and tomorrow ⑤ 『ロミオとジュリエット』(1) ⑥ 『ロミオとジュリエット』(2) ⑦ 『ロミオとジュリエット』(3) ⑧ 『ロミオとジュリエット』(4) ⑨ 『ロミオとジュリエット』(5) ⑩ 『ロミオとジュリエット』(6) ⑪ 『ヴェニスの商人』 Hath not a Jew eyes? ⑫ 『テンペスト』 This island's mine ⑬ 『ヘンリー四世 第一部』 What is honour? A word. ⑭ 『ヘンリー五世』 … few die well that die in a battle.” ⑮ 『お気に召すまま』 All the world's a stage 		
予復習等	【予習】 指定された資料を熟読すること 【復習】 学んだトピックについて、資料を調べ、理解を深めること		
評価方法	授業姿勢30%、期末レポート70%		
履修条件	英語で書かれた資料をきちんと読もうとする姿勢を持っていること（英語力は問わない）		
教科書	初回の授業で提示します		
参考書	ウィリアム・シェイクスピア劇の翻訳版各種（白水uブックス，1983）		

科目名	文化交流論 Cultural Interaction	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	文化交流を文化の接触、文化の受け入れととらえ、日本をはじめアジアの各地の文化に大きな影響を与えている仏教がインド、中国、日本でどのように展開したかを理解することを目指す。具体的には、学生が仏教の基礎知識を修得し、仏教の内容について説明できるようになることを目標とする。さらには、仏教の基礎知識を修得することによって日本やアジアの文化に対する理解力を深めることが期待される。		
授業概要	はじめに、仏教が生まれる以前からインドで実践されていたバラモン教について学ぶ。次に、釈迦の生涯、釈迦が悟った真理、人間が苦しむ理由、苦しみを除くための修行法、釈迦以後に発生した大乘仏教の思想（仏陀の種類、心の構造、清らかな心、など）について学ぶ。続いて、中国における仏教の展開として、天台教学、華厳教学、浄土信仰、禪宗についてとりあげ、また、日本の仏教の特色についても学ぶ。 【SDGs : 16, 17】		
授業計画	① 仏教とは ② バラモン教、ウパニシャッド哲学 ③ 釈迦の生涯 ④ 釈迦の悟りの内容 ⑤ 苦しみの由来 ⑥ 修行について ⑦ 仏教とバラモン教 ⑧ 原始仏教、部派仏教、大乘仏教 ⑨ 大乘仏教（1）：多くの仏陀（仏陀の種類）、空の思想 ⑩ 大乘仏教（2）：唯識説（心の構造）、如来蔵（清らかな心）、六波羅蜜（修行） ⑪ 中国での仏教（1）：天台教学、華厳教学 ⑫ 中国での仏教（2）：浄土信仰、禪宗 ⑬ 中国での仏教（3）：禪宗の展開 ⑭ 日本での仏教（1）：奈良仏教、平安仏教 ⑮ 日本での仏教（2）：鎌倉仏教、その他 ⑯ 定期試験		
予復習等	配布されたプリントを整理し、次の授業時間に使用するプリントの内容を確認しておくこと。授業後は学んだ内容のノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート50%、定期試験50%		
履修条件	比較宗教学、地域研究概論を合わせて受講することが望ましい。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	『仏教入門』／著・高崎直道／出版・東京大学出版会		

科目名	English Discussion English Discussion	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	This course will teach students basic skills for giving presentations in English. Students will learn how to develop a spoken presentation, from brainstorming ideas and writing outlines, to using expressions which help to emphasize important points so that an audience can easily understand their message. Practice will also be done in how to effectively deliver a speech using appropriate gestures, posture, and voice inflection. Emphasis will be placed on developing creative presentations with interesting content delivered in effective ways.		
授業概要	Students will become familiar with a variety of topics and presentation performance skills by watching and analyzing example presentations. Language activities will be used to increase students ability to speak effectively about the main topics. Presentation skills will begin with the basics then progress to more advanced techniques. After each topic has been practiced and new techniques learned, students will exhibit the skills they have learned by giving individual presentations in front of the whole class. Presentations will be evaluated both by the teacher and classmates, and feedback given to help students progress and gain confidence quickly. 【SDGs : 4, 17】		
授業計画	① Course introduction ② Self introductions ③ A person to admire - Part 1 ④ A person to admire - Part 2 ⑤ A person to admire - Part 3 ⑥ Developing presentation techniques - Part 1 ⑦ Developing presentation techniques - Part 2 ⑧ Presentation #1 ⑨ Travel destinations - Part 1 ⑩ Travel destinations - Part 2 ⑪ Travel destinations - Part 3 ⑫ Creating PowerPoint presentations ⑬ Developing presentation techniques - Part 1 ⑭ Developing presentation techniques - Part 2 ⑮ Presentation #2 ⑯ Written test		
予復習等	【予習】 Do the textbook activities before coming to class each week. 【復習】 Review the videos to learn good presentation skills.		
評価方法	In-class participation 20%, Homework assignments 30%, Presentations 50%		
履修条件	英語領域以外の希望者は担当教員に必ず相談すること。		
教科書	Present Yourself 2: Viewpoints (2nd ed). Steven Gershon. Cambridge Univ. Press. 2022.		
参考書			

科目名	English Presentation	単位数	1
	English Presentation	必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	This course will teach students basic skills for giving presentations in English. Students will learn how to develop a spoken presentation, from brainstorming ideas and writing outlines, to using expressions which help to emphasize important points so that an audience can easily understand their message. Practice will also be done in how to effectively deliver a speech using appropriate gestures, posture, and voice inflection. Emphasis will be placed on developing creative presentations with interesting content delivered in effective ways.		
授業概要	Students will become familiar with a variety of topics and presentation performance skills by watching and analyzing example presentations. Language activities will be used to increase students ability to speak effectively about the main topics. Presentation skills will begin with the basics then progress to more advanced techniques. After each topic has been practiced and new techniques learned, students will exhibit the skills they have learned by giving individual presentations in front of the whole class. Presentations will be evaluated both by the teacher and classmates, and feedback given to help students progress and gain confidence quickly. 【SDGs : 4, 17】		
授業計画	① Course introduction ② Surveys on people's lifestyles - Part 1 ③ Surveys on people's lifestyles - Part 2 ④ Surveys on people's lifestyles - Part 3 ⑤ Creating and taking surveys ⑥ Developing presentation techniques - Part 1 ⑦ Developing presentation techniques - Part 2 ⑧ Presentation #1 ⑨ Being persuasive - Part 1 ⑩ Being persuasive - Part 2 ⑪ Being persuasive - Part 3 ⑫ Using your voice ⑬ Developing presentation techniques - Part 1 ⑭ Developing presentation techniques - Part 2 ⑮ Presentation #2 ⑯ Written test		
予復習等	【予習】 Do the textbook activities before coming to class each week. 【復習】 Review the videos to learn good presentation skills.		
評価方法	In-class participation 20%, Homework assignments 30%, Presentations 50%		
履修条件	2年前期に「English Discussion」を履修していること。		
教科書	Present Yourself 2: Viewpoints (2nd ed). Steven Gershon. Cambridge Univ. Press. 2022.		
参考書			

科目名	メディアイングリッシュⅡ	単位数	1
	Media English II	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	服部 肇	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	BBC (British Broadcasting Corporation 英国放送協会) のニュース映像を教材として用い、現実の場面で使われている英語に触れることにより、英語の伝達能力、特に、英語の聞く力、読む力、話す力を伸長し、いっそうすぐれた英語の使用者になることを目的・目標とする。また、現代の英国や世界の社会・文化の諸相についての理解も深める。		
授業概要	授業は、BBCが放送したニュースを題材とする下記の教科書を使用して行なわれる。(BBCは、日本のNHK (Nippon Hoso Kyokai) と同じように、広告収入を持たない、公共放送を提供する放送局である。) この教科書を用いて、ニュースの内容の全体像の把握、細部の把握、書き取り、英語での要約等を行なう。また、ニュースに現われる語彙・表現の習得にも努める。さらに、ニュースの内容に関連した論題に関して、自分の意見を英語で述べる活動も行なう。 【SDGs : 5, 7, 10】		
授業計画	① 入門指導 ② Unit 2 Learning to Walk Again ③ Unit 3 A Secret Garden in London ④ Unit 4 Unpaid Internships ⑤ Unit 5 The Wedding Gallery ⑥ Unit 6 A Modern Steam Train ⑦ Unit 7 A T-shirt Exhibition ⑧ Unit 8 Generation Z ⑨ Unit 9 Vaganuary ⑩ Unit 10 Wind Power in Britain ⑪ Unit 11 Preventing Transgender Bullying ⑫ Unit 12 A Plastic Tenner ⑬ Unit 13 How to Delay Ageing ⑭ Schools Deal with Fake News ⑮ Experiences of Sexual Harassment ⑯ 定期試験		
予復習等	受講後、授業で扱ったニュースを読み直し、そこに用いられている語句の整理を行ない、そのニュースの要約を試みる事が求められる。		
評価方法	定期試験（70%）、授業への取り組み（30%）		
履修条件			
教科書	『British News Update』/著: Timothy Knowles他/出版: 金星堂		
参考書			

科目名	メディアイングリッシュⅢ	単位数	1
	Media English III	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	VOAの映像を通して、メディア・リテラシーの基礎力を養成することを目的とする。到達目標は、以下である。1) 世界のニュースに触れることで生きた英語に触れ、聴解や読解できる力を身に付ける、2) 現代的な社会問題について必要な情報を収集し、得られた情報を適切に整理・分析できる、3) 国際的な視野を身に付け、異文化に対する理解を深めることができる。		
授業概要	<p>実用的な英語表現を映像とスクリプトを用いた活動を通じて学習し、総合的な英語力を培う。視聴覚教材に関連する文法事項と語彙を丁寧に確認することで英語力の充実を図る。また、内容理解だけでなく、定型表現の使い方を確認し、スクリプトで確認した内容の要約も行う。また興味を持ったニュースについて内容や意見をグループで発表する機会を設けたい。受講者には、能動的な参加が求められる。</p> <p>【SDGs : 4, 16, 17】</p>		
授業計画	<p>① Introduction ② Unit 1 Kimuchi in Space ③ Unit 2 Is Ginkgo Biloba Effective? ④ Unit 3 Our Best Friends Understand Us! ⑤ Unit 4 Gaming Online ⑥ Unit 5 Overtaken by China ⑦ Unit 6 More Salt with Your Vegetables? ⑧ Unit 7 Homes for the Homeless ⑨ Unit 8 Care for an Exoskeleton? ⑩ Unit 9 Health on the Go ⑪ Unit 10 E-Books Rising ⑫ Unit 11 Health in the Forest ⑬ Unit 12 Gravity- defying Skateboards ⑭ Unit 13 Living Your High-tech Dreams ⑮ Unit 14 Onward to Jupiter ⑯ 定期試験（又はレポート）</p>		
予復習等	<p>【予習】Teamsにて予習課題を提出する。 【復習】授業で扱った教材の復習</p>		
評価方法	授業内課題、小テストその他50%、定期試験（またはレポート）50%として総合的に判断する。		
履修条件	なし		
教科書	VOA News Plus 成美堂		
参考書	なし。適宜紹介する。		

科目名	エッセイライティング	単位数	1
	Essay Writing	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	The goal of this course is to help students improve their ability to write essays in English. By reviewing basic composition skills for writing in English, students will learn how to create essays on various topics that are well organized and effective for communicating ideas. Students will also develop necessary editing skills for checking and correcting their compositions.		
授業概要	<p>The course will start by reviewing basic paragraph writing skills (using to Western modes of composition). These skills include learning how to write effective topic sentences and create unified paragraphs that have cohesive support. Students will practice these composition skills by writing paragraphs about various topics. The second half of the course will introduce a variety of essays. Students will learn how to organize and write multi-paragraph essays. Students will practice writing their own descriptive, comparison, and persuasive essays.</p> <p>【SDGs : 4, 17】</p>		
授業計画	<p>① Course introduction ② Writing an opinion paragraph (Part 1) ③ Writing an opinion paragraph (Part 2) ④ Writing a problem-solution paragraph (Part 1) ⑤ Writing a problem-solution paragraph (Part 2) ⑥ Writing a cause and effect paragraph (Part 1) ⑦ Writing a cause and effect paragraph (Part 2) ⑧ Introduction to the essay ⑨ Descriptive essays (I) ⑩ Descriptive essays (II) ⑪ Persuasive essays (I) ⑫ Persuasive essays (II) ⑬ Classification essays (I) ⑭ Classification essays (II) ⑮ Comparison essays ⑯ Final exam / report due</p>		
予復習等	<p>【予習】Study the textbook before coming to class each week. 【復習】Review the lessons to better remember the material covered in class.</p>		
評価方法	出席状況 30%、提出物・宿題 40%、小テスト・定期試験 30%		
履修条件	1年後期に「パラグラフライティング」を履修していること。		
教科書	From Paragraph to Essay: Get Your Message Across II. Kate Elwood, Leonid Yoffe, Hisatake Jimbo. Nan'un-do. 2013.		
参考書	和英・英和辞書を持参すること		

科目名	アドバンストリーディング Advanced Reading	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	中・上級レベルの英文読解力の修得を目指し、多様な英文テキストを読み解く力を総合的に育成することを目的とします。具体的には、①語彙、文の構造、文法、表現、文脈についての確に把握できるようになること、②英文を論理的かつ深く理解できるようになること、③自分の言葉で内容を説明できることを目標とする。		
授業概要	本授業では、アメリカ社会を様々な視点から扱ったテキストを使用し、政治的、社会的、文化的な角度からアメリカの複雑な状況を読み解きます。英文の表層的理解だけではなく、内容の深い理解を目指すには背景や現状についての知識も必要となります。したがって英文理解のための語彙、文法、内容把握の学習に加え、アメリカ社会や文化の理解のためのインプットを丁寧に行います。複雑な問題を英文で読み、考察する学習習慣を養って行きます。 【SDGs：④】		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 1 ③ Unit 1 ④ Unit 2 ⑤ Unit 2 ⑥ Unit 3 ⑦ Unit 3 ⑧ Unit 4 ⑨ Unit 4 ⑩ Unit 5 ⑪ Unit 5 ⑫ Unit 6 ⑬ Unit 6 ⑭ Unit 7 ⑮ Unit 7 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】指定された範囲を読み、演習問題を解いておく。(60分) 【復習】語彙を整理し、単語リストを作る。英文を音読する。(30分)		
評価方法	出席状況・授業態度20%、課題40%、定期試験40%		
履修条件	なし		
教科書	Inside and Out／著：塚田幸光・中村嘉雄・Ayed Hasian 出版：金星堂		
参考書	なし		

科目名	観光英語 Tourism English	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	佐竹 直喜	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	観光における様々な場面で基本的な英語を理解できる表現できることを目指す。観光英語の基本単語、基本表現、世界の観光事情等の英語表現を学び、自分で表現するために必要な英語運用力の訓練、口頭再現・英作文のアウトプット訓練をし、第三者に正確に伝える力も高める。		
授業概要	①指定のテキストを使い、観光英語に関する基本的な英語表現・英単語をインプットする。 ②自分で表現するために必要な英語運用力の訓練、口頭再現・英作文のアウトプット訓練をし、第三者に正確に伝える力も高める。 ③上記の学習を基に、岐阜の観光について英語で発表し、英語プレゼン力を高める。 【SDGs：4,9,17】 【岐阜学関連の授業回：②～⑮】		
授業計画	① オリエンテーション ② Unit1 ③ Unit2 ④ Unit3 ⑤ Unit4 ⑥ Unit5 ⑦ Unit6 ⑧ Unit7 ⑨ Unit8 ⑩ Unit9 ⑪ Unit10 ⑫ Unit11 ⑬ Unit12 ⑭ Unit13 ⑮ まとめ		
予復習等	・指定テキスト、配布資料を授業内外で何度も読み込む。 ・観光英語の表現・英単語を覚え、日頃から運用できる練習をしておく。		
評価方法	授業参加状況40%、発表等60%		
履修条件			
教科書	実用観光英語 一改訂新版— Travel English at Your Fingertips -Revised Edition-(成美堂)		
参考書			

科目名	英語のしくみⅡ	単位数	2
	English Grammar II	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	大澤 聡子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	コミュニケーションの多くは「ことば」を媒介として行われる。したがって「ことば」を深く理解することがコミュニケーションの理解につながる。本授業では英文法の理解を通して英語コミュニケーション能力の向上につなげることを目的とする。学生は、これまでに学修した英文法を単なる知識としてではなく、①コミュニケーションに使える文法として理解し、②英語の感覚を身につけることを目標とする。		
授業概要	本授業では、英語学修者からコミュニケーションに「使える」実用的な文法書として定評のあるGrammar in Useを使用し、高校までの英文法を復習すると同時に、多くの実用的な用例を見ながら、自然な文脈や会話の中での使用法を理解する。テキストは平易な英語で解説され、練習問題も全て英語で書かれているものを使用するため、毎回の予習が求められる。授業ではテキストの文法解説に加え、英語という言葉の「本質的なしくみ」について、さらに掘り下げた解説を行う。 【SDGs：4】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② Passive (1) 受動文 ③ Passive (1) 受動文 ④ Gerund and Infinitive (1) 動名詞と不定詞 ⑤ Gerund and Infinitive (2) 動名詞と不定詞 ⑥ Gerund and Infinitive (3) 動名詞と不定詞 ⑦ Perceptual Verb 知覚動詞 ⑧ Review ⑨ Articles and Nouns (1) 冠詞と名詞 ⑩ Articles and Nouns (2) 冠詞と名詞 ⑪ Singular and Plural 単数形と複数形 ⑫ Existential Sentence 存在文 ⑬ Some and Any SomeとAny ⑭ -ing and -ed Phrases -ing句と-ed句 ⑮ Prepositions 前置詞 ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】テキストの授業範囲を読み、疑問点をまとめておく。（90分） 【復習】練習問題を復習し、重要事項をまとめる。（90分）		
評価方法	出席状況・授業態度30%、定期試験70%		
履修条件	「英語のしくみⅠ」を履修していることが好ましい。		
教科書	Grammar in Use Intermediate / 著：Raymond Murphy / 出版：Cambridge University Press		
参考書	授業で指示する。		

科目名	英米文学	単位数	2
	British and American Literature	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	鈴木 辰一	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	古英語時代～現代にいたるイギリス文学、アメリカ文学の歴史を概観することによって、英米文学を研究する上で最低限知っておくべき知識を得ることを目的とします。現代も広く読まれている作家とその作品についての知識を得ることにより、英語圏（特に英米）の人々と共通の文化的な知識を身につけ、コミュニケーションを取る際に間接的に役立てられるようにします。		
授業概要	上の到達目標を達成すべく、この授業では古英語の時代から現代に至るまでの英米文学の歴史を概観します。授業では、各時代の時代背景や代表的な作家の作品とその特徴などについての講義を行います。時間の許す限り、実際に文学作品の抜粋を読みながら具体的な形で知識を身につけていきます。また、授業外の課題として、3冊以上の文学作品を読み、その概要などをBook Reportとしてまとめて提出することを課します。 【SDGs：17】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス／イギリス文学①ジェフリー・チャーサー他 ② イギリス文学②ウィリアム・シェイクスピア他 ③ イギリス文学③ジョン・ミルトン他 ④ イギリス文学④ダニエル・デフォー他 ⑤ イギリス文学⑤ウィリアム・ワーズワス他 ⑥ イギリス文学⑥チャールズ・ディケンズ他 ⑦ イギリス文学⑦トマス・ハーディー他 ⑧ イギリス文学⑧ヴァージニア・ウルフ他 ⑨ イギリス文学⑨カズオ・イシグロ他 ⑩ アメリカ文学⑩ナサニエル・ホーソーン他 ⑪ アメリカ文学⑪マーク・トウェイン他 ⑫ アメリカ文学⑫アーネスト・ヘミングウェイ他 ⑬ アメリカ文学⑬J・D・サリンジャー他 ⑭ アメリカ文学⑭アーサー・ミラー他 ⑮ アメリカ文学⑮トマス・ピンチオン他 		
予復習等	【予習】指定された箇所の資料を読んでくること 【復習】授業で扱った作家やその作品について調べ、作品を読むこと		
評価方法	授業姿勢25%、読書レポート75%		
履修条件	英語で書かれた資料をきちんと読もうとする姿勢を持っていること（英語力は問わない）		
教科書	初回の授業で提示します		
参考書	初回の授業で提示します		

科目名	中国語(会話)	単位数	1
	Chinese (Conversation)	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科(2年前期)	科目区分	演習
担当者	鄭 躍慶	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本授業は中国語中級レベル向けの授業であり、旅行やビジネスに必要な基礎会話能力を身につけることを目的とする。中国語の特徴である声調を意識しながら、単語や短文の正しい発音やリスニング力の向上を目指し、実践的な練習を行うことで、簡単な会話ができることを目標とする。各課の本文を正しく綺麗に読めることをめざし、その文章に出てくる基本単語、文法の要点など留意しながら読み、書き、暗記することに中国語の理解力を高めていく。更に、学生たちが中国語に対して、興味・関心を持つように促す。		
授業概要	本授業はテキストに沿って、発音練習や文法の説明、リスニングを中心に行う中で、観光とビジネスに関連する日常会話ができることを目標とする。授業を中心としながら、個人指導も行う。具体的に文法、本文などの解釈の後、個別に発音のチェック及び練習問題などを通じて授業を行う。二回一課のペースで進めていく予定である。基本表現を繰り返す練習をすることによって身につけて、コミュニケーション能力を高めていく。そして、問題練習を通じて学習内容を定着させる、受講者が中国語学習で難しいと感じる点は時間をかけて説明する。観光とビジネスに使う会話を中心に授業を組み立て、受講者一人ずつ発音しながら、リアルな会話力を身につけて、さらなる上達が期待できる。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 発音の復習 ② 第2課 中国方言多, 民族也多。 ③ 第2課の文法と練習 ④ 第3課 坐地铁去吧 ⑤ 第3課の文法と練習 ⑥ 第4課 用手机上网查查。 ⑦ 第4課の文法と練習 ⑧ 第5課 我也想去锻炼锻炼。 ⑨ 第5課の文法と練習 ⑩ 第6課 你弹的古筝太好听了! ⑪ 第6課の文法と練習 ⑫ 第7課 学习中文写作 ⑬ 第7課の文法と練習 ⑭ 第8課 学习中文写作 ⑮ 復習 ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】各課の単語、文法、本文を予習して、その説明を理解しておくこと。 【復習】前回習った内容を復習することを少なくとも一時間程度行うこと。		
評価方法	授業への参加状況：出席状況30%、小テスト20%、定期試験50%による総合評価。		
履修条件	なし		
教科書	「新 跟我学汉语」あるむ 著者 朱新建 鲁雪娜 李智基 (本体2500円+税)		
参考書	授業中で随時に紹介する。		

科目名	観光中国語	単位数	1
	Tourism Chinese	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科(2年後期)	科目区分	演習
担当者	郭 琦琪	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	各課の本文を正しく綺麗に音読できることをめざす。学生が文章における語彙、熟語、文法のポイントを読み、書き、暗記して、中国語の理解力を高めていく。授業の内容によって学生がその表現、言い方の日本語との違いを考察し、言語表現に表れる文化的特徴にも学生の興味を促すことも目指す。更に、各課の内容によって中国語や中国と日本の社会に関する相互理解をさらに深めて行くことは本講義の目的と到達目標である。		
授業概要	本授業では、単語、本文の正しい読み方すなわち発音の確認と、基本的文法の学習、あわせて実際の場面を想定した説明、例文の提示、練習を行う。また、一回一課のペースで進めていく予定である。学生が本文中の主な文法を理解するだけではなく、今まで習った単語と組み合わせて応用できる力を養うことも目指す。グループワークで練習をするなど、アクティブラーニングの手法を用いることも予定している。受講生の理解の状況に合わせて進度を調整する。 【SDGs：4】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス 第1課 自分・家族 ② 第2課 家 ③ 第3課 好きなこと ④ 第4課 SNS ⑤ 第5課 休日 ⑥ 第6課 旅行の思い出 ⑦ 第7課 中国への興味 ⑧ 第8課 東京案内 ⑨ 第9課 交通事情 ⑩ 第10課 買い物事情 ⑪ 第11課 日本の文化 ⑫ 第12課 サブカルチャー ⑬ 第13課 食事 ⑭ 第14課 相互理解 ⑮ 復習 ⑯ 定期試験 		
予復習等	授業前に単語、文法、本文を予習する。授業後に習った内容を復習することを少なくとも一時間程度に行うこと。		
評価方法	授業の参加態度30%、小テスト20%、定期試験50%。		
履修条件	なし		
教科書	[2年めの伝える中国語] 白水社 著者：及川淳子 (2300円+税)		
参考書	授業中で随時に紹介する。		

科目名	現代中国論 Contemporary Chinese Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	鄭 躍慶	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	日本と中国は“一衣帯水”と言われるほど地理的に近い存在であるが、両国は政治制度や価値観、文化などにおいて多くの相違点を持っている。相互理解を深めるため、本授業は現代中国社会を中心に、政治・経済・社会・文化の諸側面を多角的に学び、日本や他国との比較を通して中国社会への理解を深めることを目的とする。また中国社会の特徴を説明できるとともに、異なる価値観や社会制度について理解し、他者の立場を尊重して考えることができるようになることを目標とする。そしてグローバル化と情報化が進む現代社会の仕組みを理解すると同時に、豊かな人間性を支える教養と深い専門的知識を身につけて、現代社会の問題点を、世界的な視野から分析・考察することができるように目指すこと。		
授業概要	歴史の古い中国には、万里の長城、秦の兵馬俑、故宮などたくさんの世界遺産があり、また偉大な教育者である孔子や「孫子の兵法」の著者孫武など歴史上の有名な人物も存在する。1949年10月1日に中華人民共和国を建国してからすでに75年に経った。中では40年余りの改革開放の試みにより、中国経済は持続的に急成長し、中国は勃興の時代へと激変を遂げた。人々の中国への関心も、もはや、古い文明に止まらず、今日と明日の中国へ注がれている。 本講義では、中国の概況及びその歴史、政治、文化、教育等の諸分野を取り上げながら中国を知るための基本知識を教える。現代中国社会、および伝統的な中国文化に関心を持って主体的に学び、多様な文化、社会について理解し、説明することができる。 毎回、授業に必要な応じて映像、資料を提示する。授業の最後にはその日の振り返りミニコメントの提出を課する。現代中国の画像を導入として、そこに表象されている中国社会・文化を取り上げ、学んでいく。単に中国の社会・文化を知るといっただけでなく、それを読み取る力、外国文化をどう理解するかなどの問題も合わせて考えていく。		
授業計画	① ガイダンス：講義の目的・到達目標、進め方、学習方法 ② 中国の概況：地理、国土と資源、行政区画と街 ③ 中国の教育事情 ④ 中国の政治制度と国家機構 ⑤ 戸籍制度と社会保障 ⑥ 中国の言語と文化 ⑦ 東洋思想：儒教（1） ⑧ 東洋思想：道教、仏教（2） ⑨ 中国の人口と民族問題 ⑩ 風土：大陸文化・半島文化・島文化 ⑪ 衣・食・住の生活習慣（様式） ⑫ 日・中・韓の国民性について ⑬ 世界遺産：万里の長城（1） ⑭ 世界遺産：故宮（2） ⑮ グループ発表 ⑯ グループ発表		
予復習等	【予習】日頃のニュースやトレンドに関心を持つこと。 【復習】疑問に感じたことを調べたり、授業中に質問や意見交換などを行う		
評価方法	授業への参加度40%、グループ発表と小テスト（コメント）30%、期末レポート30%により総合的に評価する。（基本的に自学科と他学科の学生に同じ基準を評価する）		
履修条件	なし		
教科書	指定教科書がなし、必要に応じて資料を配布する。		
参考書	なし		

科目名	韓国語（会話） Korean (Conversation)	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「初級韓国語（Ⅰ・Ⅱ）」、「韓国語（文法・読解）」の学習の上に、韓国語の基本的な文法事項のさらなる学習と、韓国語による基本的な表現がさらに理解できるようになることを目指す。具体的には、学生が韓国語の基本的な表現をさらに覚え、自ら発話することができる、また他者が発話を聞き取り、書きとることができるようになることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：在外公館で翻訳、通訳の経験あり】 配布するプリントの学習内容にしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。受講者には韓国語で発話してもらったり、質問に答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。これまで学んだ文法事項をできるだけ使って発話に挑戦することを期待する。 【SDGs：4, 17】		
授業計画	① -(으)로, -까지, -(으)니까 ② -아/어/여서, -에서-까지 ③ -부터-까지, 르不規則変化 ④ -에게, -한테, -께, -군요, -는군요 ⑤ -아요/-어요/-여요, -는/(으)ㄴ/(으)ㄹ名詞 ⑥ ㄹ不規則変化, ㅂ不規則変化, ㅈ不規則変化 ⑦ -기 때문에, -때문에, -(으)ㄹ 것이다 ⑧ 動詞는데, 形容詞ㄴ/은데, 名詞인데 ⑨ -을 것 같다, -는 것 같다, -ㄴ 것 같다 ⑩ ㅎ不規則変化, -지 못하다, -(으)면, -(으)ㄹ 수 있다/없다 ⑪ -(으)러 가다/오다, -전에, -마다 ⑫ -아/어/여 보다, -았/였/였으면 하다 ⑬ -아/어.여 자다, -(이)나, -기로 하다 ⑭ -는 동안, -고요 ⑮ -(으)려고, -고요 ⑯ 定期試験		
予復習等	プリントの中から次回の授業で学ぶ範囲の単語の意味を調べ、例文を読んでおくこと。毎回授業内容の復習に努めること。		
評価方法	定期試験50%、出席状況および授業態度50%		
履修条件	「初級韓国語（Ⅰ・Ⅱ）」、「韓国語（文法・読解）」の学習内容を習得していること。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	「初級韓国語Ⅰ・Ⅱ」で使用した教科書		

科目名	観光韓国語 Tourism Korean	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	孫 ミギョン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義では、韓国旅行において必要とされる基本的な表現や語彙を学び、観光場面を想定した韓国語コミュニケーションの基礎を身につけることを目標とする。 さらに、本講義で学んだ表現を応用し、岐阜の観光地に関する情報や魅力について、簡単な韓国語で提示・説明できるようになることを目指す。		
授業概要	【担当者の実務経験：公的機関等における通訳・翻訳の実務経験あり】 本講義では、海外旅行の場面で用いられる基本的な韓国語表現を学び、聞き取りや発話の基礎的な力を養うことを目的とする。授業内では、担当者の実務経験を踏まえ、実際の使用場面を想定したペアワークや会話練習を行い、学習した表現の定着を図る。 【SDGs：4, 9, 17】 【岐阜学関連の授業回：⑭, ⑮】		
授業計画	① ガイダンス ② 第1課 こちらへどうぞ ③ 第2課 ウォンに換えてください ④ 第3課 まっすぐ行くと4番出口に出ます ⑤ 第4課 いま部屋に入れますか ⑥ 第5課 自分で買わなきゃいけないんですか ⑦ 第6課 どこで何時に会いましょうか ⑧ 第7課 二人ともかわいいでしょ？ ⑨ 第8課 辛いものも食べられる？ ⑩ 第9課 辛さ控えめにしてもらえますか。 ⑪ 第10課 一度も聞いたことないじゃないですか ⑫ 第11課 3万5千ウォンにしたららっしゃだめですか ⑬ 第12課 どうしても遅くなりそうです ⑭ 学生発表：韓国語で岐阜案内① ⑮ 学生発表：韓国語で岐阜案内② ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】次回の授業範囲を確認し、新出単語や表現の意味を調べ、発音にも目を通しておくこと。 【復習】授業で扱った単語や表現を振り返り、会話練習の内容を中心に整理・確認すること。		
評価方法	発表及び提出物20%、小テスト30%、定期試験50% (授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない)		
履修条件	「初級韓国語(I・II)」、「韓国語会話I」の単位を履修していること		
教科書	『コミュニケーション韓国語 聞いて話そうII』／著：長谷川由起子、張ユンヒョン／出版社：白帝社		
参考書	なし		

科目名	現代韓国論 Contemporary Korean Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	孫 ミギョン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	この授業では、「韓流」やK-popといった大衆文化にとどまらず、現代韓国社会の歴史的背景や社会構造を踏まえながら、政治・経済・メディア・日常文化など多様な分野における文化的特徴を入門的に学ぶ。これらの学習を通じて、現代韓国社会と文化を多角的に理解するための基礎的な視点と知識を身につけることを目標とする。		
授業概要	本講義では、日本と地理的・歴史的に深い関係をもつ韓国の社会と文化について学ぶ。現代韓国の時間的範囲を、1948年8月15日の大韓民国樹立以降と位置づけ、政治体制の変化、経済政策、文化政策の展開を中心に講義を進める。これらの学習を通じて、現代韓国社会の特徴を歴史的・構造的に理解するための基礎的な視点と知識を身につけることを目標とする。 さらに、具体的なケーススタディを用いて理解を深める。 【SDGs：4, 17】		
授業計画	① ガイダンス ② 韓国学の領域と範囲 ③ 現代韓国の政治的変化と経済の発展段階 ④ 韓国における文化政策の歴史① ⑤ 韓国における文化政策の歴史② ⑥ 韓国における日本文化開放 ⑦ 日本における韓流現象 ⑧ K-POP史① ⑨ K-POP史② ⑩ K-コンテンツから見る韓国社会①：「愛の不時着」 ⑪ K-コンテンツから見る韓国社会②：「梨泰院クラス」 ⑫ ドラマ「パチンコ」から見る在日韓国・朝鮮人、その移住と歴史① ⑬ ドラマ「パチンコ」から見る在日韓国・朝鮮人、その移住と歴史② ⑭ 学生発表：K-コンテンツ分析① ⑮ 学生発表：K-コンテンツ分析② ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】新聞、テレビ、インターネットのニュース等を通じて、韓国の社会・政治・文化に関する話題を取り上げ、授業で扱うテーマに関連する情報に事前に目を通しておくこと。 【復習】授業内容を振り返り、重要な用語や事例を整理したうえで、現代韓国社会の特徴について自分なりにまとめること。		
評価方法	出席状況30%、授業態度20%、定期試験(レポート) 50%(授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない)		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	「やさしい日本語」作文 Plain Japanese (Composition)	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	主に日本在住の外国籍の方とのコミュニケーション手段として、「やさしい日本語」の意味や社会において果たす役割などを理解した上で、場面や目的に応じた表現を工夫できるようになることを授業目的とする。その上で、場面や相手に応じて、より分かりやすく伝えるために、普段から難解な文章をやさしくかみ砕いて変換しようとする姿勢を身につけられようようになること、文章表現を磨くと同時に、話し方や応対の上でも相手の身になった振る舞いの必要性を理解し、実践できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：なし】 日本語を母語としない相手に分かりやすく伝えるための「やさしい日本語」を実践的に習得する。「やさしい日本語」を用いて、自分の言いたいことを相手に分かりやすく表現するために、語彙の選択や表現方法の工夫なども視野に入れ、グループで各場面に合わせた発話を考えて発表する。自分が何を伝えたいか、伝えるべき重要な情報は何かを整理すると同時に、相手が何を知りたいか、何を求めているかを思いやる力を磨く。語彙を増やすことや作文の技術だけでなく、相手に対するやさしくあたたかい姿勢や、他者を配慮する心も磨く。 【SDGs：4, 10】		
授業計画	① ガイダンス、「やさしい日本語」への知識を高める ② 「やさしい日本語」以前に必要な姿勢とは ③ 寄り添う気持ちと求められる態度—話の聞き方演習— ④ 「やさしい日本語」の基本（1）、作文演習（1） ⑤ 「やさしい日本語」の基本（2）、作文演習（2） ⑥ 「やさしい日本語」の基本（3）、作文演習（3） ⑦ 「やさしい日本語」の基本（4）、作文演習（4） ⑧ 「やさしい日本語」の応用（1）、作文演習（5） ⑨ 「やさしい日本語」の応用（2）、作文演習（6） ⑩ 「やさしい日本語」の応用（3）、作文演習（7） ⑪ 「やさしい日本語」のポイント（1）作文演習（8） ⑫ 「やさしい日本語」のポイント（2）作文演習（9） ⑬ 「やさしい日本語」のポイント（3）作文演習（10） ⑭ 「やさしい日本語」作文演習（11） ⑮ 「やさしい日本語」作文演習（12） ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40%、演習・発表への取り組み30%、定期試験30%		
履修条件	なし		
教科書	『「やさしい日本語」で伝わる！公務員のための外国人対応』／岩田一成他／学陽書房		
参考書	必要に応じて配布プリント、映像教材を用いる		

科目名	地域実践演習Ⅰ [国際] Seminar on Regional Activities I (Graduation Thesis/ Works I)	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	各教員による指導のもと、学生自らが問題意識を持って、各自が関心を持つテーマを研究し、研究成果につなげる。学生自らが調査を行って知識を身につけるとともに、問題を発見し、分析する能力を養う。あわせて、発表の仕方や論文・レポートの書き方も学ぶ。これらを通じて、課題発見能力、問題分析・解決能力、計画遂行能力、成果報告の能力を身につけることを目指す。		
授業概要	各担当教員によるゼミ（演習）形式で実施する。学生は、1年次後期に行われるゼミ説明会後に配属が決定した各担当教員のゼミで学ぶ。各位ゼミの授業概要については、ゼミ説明会で配布される資料で授業内容を確認しておくこと。 【SDGs：10, 16, 17】		
授業計画	各担当教員が示す授業計画による。		
予復習等	毎回、各担当教員の指導にしたがって予習、復習に努めること。		
評価方法	各担当教員の指示による。		
履修条件	2年生に進級するために必要な合計単位数が取得できていること。		
教科書	各担当教員が提示する。		
参考書	各担当教員が提示する。		

科目名	地域実践演習Ⅱ [国際] Seminar on Regional Activities Ⅱ (Graduation Thesis/ Works Ⅱ)	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科 (2年後期)	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	前期の「地域実践演習Ⅰ」を受けて、各担当教員による指導のもと、引き続き学生自らが問題意識を持って、各自が関心を持つテーマを研究し、研究成果につなげる。学生自らが調査を行って知識を身につけるとともに、問題を発見し、分析する能力を養う。あわせて、発表の仕方や論文・レポートの書き方も学ぶ。これらを通じて、課題発見能力、問題分析・解決能力、計画遂行能力、成果報告の能力を身につける。		
授業概要	各担当教員によるゼミ(演習)形式で実施する。学生は、前期の「地域実践演習Ⅰ」に続いて各担当教員のゼミで学ぶ。各ゼミの授業概要については、1年次後期に実施するゼミ説明会で配布される資料で授業内容を確認しておくこと。 【SDGs : 10, 16, 17】		
授業計画	各担当教員が示す授業計画による。		
予復習等	毎回、各担当教員の指導にしたがって予習、復習に努めること。		
評価方法	各担当教員の提示による。		
履修条件	各担当教員の提示による。		
教科書	各担当教員の提示による。		
参考書	各担当教員の提示による。		

科目名	海外言語・文化演習(英語圏) Overseas Language and Culture Program (English- speaking Countries)	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科 (1・2年全期)	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	これまで学んだ英語の能力を基に、英語圏での大学で大学教員による授業を受講しながら、聞く、話す、読む、書くの4技能をさらに伸ばすことを目標とする。あわせて、学生各自が身につけた英語を使って英語圏の文化、社会を観察、体験し、各自の視野を広め、異なる文化を持つ人々との共存を目指す思考を養うことを目標とする。		
授業概要	夏季もしくは春季休暇中に10日程度、英語圏での研修を予定している。研修先の大学において、ネイティブスピーカーの現地教員による英語および英米文化の授業を受けるとともに、現地学生との交流活動も行う。世界遺産や博物館などの見学、ホームステイも予定している。現地への出発前にオリエンテーションを実施し、帰国後は課題の提出を求める。現地での授業や活動のほかに、出発前のオリエンテーションへの出席、帰国後の課題提出を満たした者に単位取得を認める。 【SDGs : 10, 17】		
授業計画	① 出発前にオリエンテーションを実施する(数回) ② 現地研修校における語学・文化演習 ③ 帰国後、課題提出		
予復習等	各オリエンテーションの後、その内容を確認し、出発のための準備を怠らないこと。研修先では真面目な態度で臨むこと。		
評価方法	研修での授業や活動への参加態度50%、帰国後の課題50%		
履修条件	初回のオリエンテーションで指示する。		
教科書	なし(現地研修先での指定教科書がある場合もある)		
参考書	オリエンテーションで指示する。		

科目名	海外言語・文化演習（中国語圏）	単位数	1
	Overseas Language and Culture Program (Chinese-speaking Countries)	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1・2年全期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	授業で学んだ中国語の能力を基に、中国語圏の大学で大学教員による授業を受講しながら、聞く、話す、読む、書くの4技能をさらに伸ばすことを目標とする。あわせて、学生各自が身につけた中国語を使って中国語圏の文化、社会を観察、体験し、各自の視野を広め、異なる文化を持つ人々との共存を目指す思考を養うことを目標とする。		
授業概要	夏季休暇中に1週間程度中国語圏での研修を予定している。研修先の大学において、ネイティブスピーカーの現地教員による中国語および中国文化の授業を受けるとともに、現地学生との交流活動も行う。世界遺産や博物館などの見学も予定している。現地への出発の前にオリエンテーションを実施し、帰国後は課題の提出を求める。現地での授業や活動のほかに、出発前のオリエンテーションへの出席、帰国後の課題提出を満たした者に単位取得を認める。 【SDGs : 10, 17】		
授業計画	① 出発前にオリエンテーションを実施する（数回）。 ② 現地研修校における語学・文化演習 ③ 帰国後、課題提出		
予復習等	各オリエンテーションの後、その内容を確認し、出発のための準備を怠らないこと。研修先では真面目な態度で臨むこと。		
評価方法	研修での授業や活動への参加態度50%、帰国後の課題50%		
履修条件	初回のオリエンテーションで指示する。		
教科書	なし（現地研修先での指定教科書がある場合もある）		
参考書	オリエンテーションで指示する。		

科目名	海外言語・文化演習（韓国）	単位数	1
	Overseas Language and Culture Program (Korea)	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1・2年全期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	授業で学んだ韓国語の能力を基に、韓国の大学で大学教員による授業を受講しながら、聞く、話す、読む、書くの4技能をさらに伸ばすことを目標とする。あわせて、学生各自が身につけた韓国語を使って韓国の文化、社会を観察、体験し、各自の視野を広め、異なる文化を持つ人々との共存を目指す思考を養うことを目標とする。		
授業概要	夏季休暇中に1週間程度、韓国での研修を予定している。研修先の大学において、ネイティブスピーカーの現地教員による韓国語および韓国文化の授業を受けるとともに、現地学生との交流活動も行う。世界遺産や博物館などの見学も予定している。現地への出発前にオリエンテーションを実施し、帰国後は課題の提出を求める。現地での授業や活動のほかに、出発前のオリエンテーションへの出席、帰国後の課題提出を満たした者に単位取得を認める。 【SDGs : 10, 17】		
授業計画	① 出発前にオリエンテーションを実施する（数回）。 ② 現地研修校における語学・文化演習 ③ 帰国後、課題提出		
予復習等	各オリエンテーションの後、その内容を確認し、出発のための準備を怠らないこと。研修先では真面目な態度で臨むこと。		
評価方法	研修での授業や活動への参加態度50%、帰国後の課題50%		
履修条件	初回のオリエンテーションで指示する。		
教科書	なし（現地研修先での指定教科書がある場合もある）		
参考書	オリエンテーションで指示する。		

科目名	産業・地域振興人材研修 Human Resource Training for Industrial and Regional Development	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1・2年全期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	自治体や企業、観光施設などでの研修を通じて、地域の発展のための課題への取り組みを体験するとともに、職業意識を高める。社会で必要とされている能力について考え、研修後の学習意欲に結びつける。		
授業概要	自治体や企業、観光施設などでの研修を受ける。長期休暇を利用した研修が望ましい。単位の認定には4日以上研修期間が必要であり、また、所定の研修期間を完了すること、研修日誌を提出すること、研修後の研修レポートを提出することを単位認定の条件とする。 【SDGs：8】		
授業計画	<p>実施の過程は、おおよそ次のように予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 事前ガイダンス ② 研修を希望する学生は、希望研修先を進路支援委員の教員または担当の教員に伝える。 ③ 学生は研修登録を行う。 ④ 研修実施の決定 ⑤ 研修。研修期間中、学生は研修日誌を作成する。 ⑥ 研修終了後、研修日誌と研修レポートを進路支援員の教員または担当の教員に提出する 		
予復習等	研修先での研修内容について研究する。研修中は、研修日誌を作成し、翌日の研修に備える。		
評価方法	研修日誌、研修レポートを中心に評価する。		
履修条件	誠実に研修に臨むこと。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	異文化理解と社会の変化 Intercultural Understanding and Social Shift	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年前期）	科目区分	講義
担当者	神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	異文化理解を感覚や印象に依存するのではなく、人口構造、経済、教育、健康、価値観などの統計データを用いて客観的に分析し、社会の変化を実証的に理解する力を養うことで相手をより深く理解することに繋がる技能獲得を目的とする。 本授業では、日本と諸外国の社会データを比較検討し、文化や社会の差異を「印象」ではなく「根拠」に基づいて説明できる力を育成する。あわせて、社会科学的視点に立った論理的思考力とデータリテラシーの修得を目指す。		
授業概要	<p>本授業では、異文化理解を「文化論」にとどめず、「社会構造の比較研究」として、人口構造の変化と家族観の違い、経済発展と価値観の変容、教育水準と社会意識の関係、食文化と健康指標の国際比較、都市環境と生活様式の変化、デジタル化と世代間ギャップなどのテーマを中心に学ぶ。</p> <p>各回では、国内外の公的統計や国際比較データを用いて分析を行い、データの読み取り方、可視化、解釈方法を学ぶ。また、過去数十年のデータ推移を追うことで、社会変化を歴史的文脈の中で理解する。これにより、異文化を「固定的な違い」としてではなく、「変化の過程」として捉える視点を養う。なお、本講義は集中講義（不定期開講）であるため、授業計画であげた項目の順序や内容の一部が変更になる場合もある。 【SDGs：4, 9, 16】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス・異文化理解を実証的に捉えるとは何か ② 人口構造と社会の変化 ③ 経済発展と価値観の変容 ④ 教育・ジェンダー・社会意識 ⑤ 健康・食文化・生活環境 ⑥ デジタル化と世代間ギャップ ⑦ 比較研究の方法とレポート構成 ⑧ 最終発表と総括 		
予復習等	<p>【予習】 ニュースに関心を持ち、未知のキーワードや内容を調べる。</p> <p>【復習】 講義で取り扱った話題について自分で調べ、質疑応答や発表の準備をする。</p>		
評価方法	授業態度30%、レポート40%、プレゼン30%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じてプリントを配布する。		

科目名	グローバル人材海外演習	単位数	1
	Global Human Resource Overseas Training	必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年前期）	科目区分	演習
担当者	神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>現代社会において、データは国境を越えて流通し、国際課題の理解や意思決定の基盤となっている。本演習では、各自が設定したテーマを軸に、現地の風土・文化・社会状況に触れるとともに、データや事実を基に状況を捉え、比較・分析・考察するデータサイエンスの視点を取り入れた海外演習を行う。現地学生との協働的な活動を通じて、日本と世界を相互に捉える視野を養い、専門分野を問わず、グローバル社会に対応できる柔軟な思考力と課題発見力を身につけることを目的とする。</p> <p>1. 海外地域の社会・文化・経済に関する基礎データを収集・分析できる。 2. データ分析結果をもとに、自身の専門分野（国際コミュニケーション・健康栄養・デザイン環境）との関連を説明できる。 3. 異文化環境において、根拠に基づいた比較・考察を行うことができる。 4. 海外で得た体験的知見をデータと統合し、論理的に発表できる。 5. グローバル社会におけるデータリテラシーの重要性を理解し、自らの専門性と結びつけて説明できる。</p>		
授業概要	<p>春季休業中に、約1週間、アメリカにある岐阜市立女子短期大学の姉妹校Thomas More University (Crestview Hills, KY)において海外演習を行う。本演習では、データサイエンスを中心に、事前に設定した各自のテーマに基づいた研修を実施する。事前研修では、海外演習中に取り組むテーマの検討や事前調査を行い、演習内容の理解を深める。詳細については、オリエンテーションならびに授業進行の中で説明する。</p> <p>姉妹校は、岐阜市の姉妹都市であるアメリカ・シンシナティ近郊の“Greater Cincinnati”地域に立地している。現地の風土や文化を体感するとともに、岐阜市との姉妹都市交流の位置づけを理解し、参加を通じて各自が所属する学科の日常的な学びをさらに昇華させる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② 事前：注意事項の説明や各自の海外演習中のテーマの検討などを行う。 ③ 事前：グレートシンシナティ地域の統計データ分析 岐阜市との比較 ④ 事前：各学科専門分野との関連性の検討 ⑤ 研修：Thomas More Universityでの交流、講義参加 ⑥ 研修：地域の施設、企業訪問 ⑦ 事後：各専門分野視点からの考察比較 ⑧ 事後：成果発表会の実施 		
予復習等	オリエンテーションで説明する内容を確認し、出発のための準備を怠らないこと。		
評価方法	研修での活動などへの参加態度 50%、発表 50%		
履修条件	履修条件はないが、1年後期に開講される「異文化理解と社会の変化」（データ駆動科学教育研究センター、全学科対象）を受講していることが望ましい。		
教科書	なし。		
参考書	オリエンテーションにて指示する。		

科目名	プログラミング入門	単位数	1
	Introduction to Computer Programming	必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	講義
担当者	長谷川 旭	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>【目的】プログラミングについての知識は、社会を考察していくうえでも重要になっていく。本授業では、Pythonを使用したプログラムの作成を通じて、プログラミングの基本的な考え方や知識を修得する。</p> <p>【到達目標】これまでにプログラミングの経験がなくても、プログラミング言語の基本的な文法を理解し、簡単なプログラム作成ができるようになることを目標とする。 ※本授業によって得られるスキルは、連携開設科目「データ科学基礎演習B」の履修に役立つ（本授業を履修しなくとも「データ科学基礎演習B」を履修することは可能）</p>		
授業概要	<p>「プログラミング入門」では、Pythonというプログラミング言語を使って、コンピュータを使った問題解決の基礎を学びます。プログラミングを通じて、データの扱いや作業の自動化といった、社会で役立つスキルを身につけることができます。具体的には、データを整理する方法や、コンピュータを利用した問題を解決するための考え方を習得し、日常生活や仕事で役立つプログラムを作れるようになります。授業は、実際に手を動かしてコードを書きながら進めていき、最終的には、身の回りの課題をプログラミングを使って解決できるようになることを目指します。プログラミング初心者でも安心して学べる内容です。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション、環境構築 (Google Colab) ② プログラミングの基本構造、演算子 ③ 変数、制御構造 (順次) ④ 制御構造 (分岐) ⑤ 制御構造 (反復) ⑥ 関数とモジュール ⑦ ライブラリ・モジュールの使用 ⑧ 期末試験 		
予復習等	<p>【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する 【復習】授業内容を振り返り、理解が不十分な事項については必ず理解しておくこと</p>		
評価方法	平常点	30%	
	課題および授業内試験	70%	
履修条件	なし		
教科書	適宜、プリントの配布あるいはスライドによる提示を行う		
参考書	なし		

科目名	クリティカル・シンキング Critical Thinking	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	講義
担当者	長谷川 旭	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	現代において、気候変動の問題やCOVID-19の問題など、特定の国・地域だけでは対応することが難しい複合的な課題に直面している。人工知能（AI）においても、国際的な競争のみならず、そのリスクに関して、国際的なルール作りも議論されている。こうした状況において、これまで以上に異なる分野や国際間の相互理解が求められている。そこで、本講義では、広い視野から学問に対する興味・関心を喚起するとともに、その関連性・横断性を学ぶことで、柔軟な思考力と洞察力を兼ね備えるための素養を涵養する。		
授業概要	この授業は、講義、ディベートやディスカッション、発表などを通じて実践的な学びを提供します。グローバル社会において必要とされるスキルや知識、特にグローバル人材としての役割や能力を理解し、問題解決するために必要な要素について学ぶ。 【SDGs：4,9】		
授業計画	① クリティカル・シンキングの前提知識 ② メディアリテラシーについてのワークショップ ③ 国際的な課題、これからの時代を考える ④ 問題解決・議論の手法(1)ロジカル・シンキングとディベートの手法 ⑤ 問題解決・議論の手法(2)バイアスについて学ぶ ⑥ 問題解決・議論の手法(3)実践 ⑦ グローバル人材に必要とされる知識や能力 ⑧ まとめ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 グローバル人材に関連するニュースなどについて、興味をもって主体的に情報収集しておくこと 【復習】 授業内容を振り返り、要点を整理すること。		
評価方法	初回の授業で担当教員が提示する。		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	なし。		

科目名	クリティカル・シンキング Critical Thinking	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（2年前期）	科目区分	講義
担当者	長谷川 旭	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	現代において、気候変動の問題やCOVID-19の問題など、特定の国・地域だけでは対応することが難しい複合的な課題に直面している。人工知能（AI）においても、国際的な競争のみならず、そのリスクに関して、国際的なルール作りも議論されている。こうした状況において、これまで以上に異なる分野や国際間の相互理解が求められている。そこで、本講義では、広い視野から学問に対する興味・関心を喚起するとともに、その関連性・横断性を学ぶことで、柔軟な思考力と洞察力を兼ね備えるための素養を涵養する。		
授業概要	この授業は、講義、ディベートやディスカッション、発表などを通じて実践的な学びを提供します。グローバル社会において必要とされるスキルや知識、特にグローバル人材としての役割や能力を理解し、問題解決するために必要な要素について学ぶ。 【SDGs：4,9】		
授業計画	① クリティカル・シンキングの前提知識 ② メディアリテラシーについてのワークショップ ③ 国際的な課題、これからの時代を考える ④ 問題解決・議論の手法(1)ロジカル・シンキングとディベートの手法 ⑤ 問題解決・議論の手法(2)バイアスについて学ぶ ⑥ 問題解決・議論の手法(3)ディベート実践 ⑦ グローバル人材に必要とされる知識や能力 ⑧ まとめ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 グローバル人材に関連するニュースなどについて、興味をもって主体的に情報収集しておくこと 【復習】 授業内容を振り返り、要点を整理すること。		
評価方法	初回の授業で担当教員が提示する。		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	なし。		

科目名	地域データ分析 Introduction to Regional Data Analysis	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（2年前期）	科目区分	講義
担当者	神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>「地域課題」と聞くと、ある地域が抱える何かしらの課題だろうというイメージを持つと思う。課題としたものは、果たして本当に課題なのか。漠然と見る課題もあれば、エビデンスに基づき提示できる課題もあるだろう。本授業では、データ入手から、データ分析、データの裏を語る地域課題について取り扱う。様々な地域において公的なデータを基にした地域理解、地域分析に及ぶ考え方を学ぶ。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：実務経験なし】</p> <p>本授業では、地域課題を裏付ける公表データ、地域発見に繋がる公表データの搜索、入手したデータの分析と発表、他者の発表を聞いての学び、質疑などの活動を通じ、課題発見、課題解決に結びつく提案力を身につける。</p> <p>【SDGs：4】 【岐阜学関連の授業回：①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦, ⑧】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション 「地域課題」を知る ② 地域資料の入手、資料は1つか複数か？ ③ 入手資料から一何を見るか？何を見たいか？ ④ 地域資料からの分析と発表準備 ⑤ 分析開示（発表） 発表を基とした議論 ⑥ 分析の振り返りーデータ再分析 見たものは「適当」であったか？ ⑦ 再分析と最終発表準備 ⑧ 最終報告 		
予復習等	<p>【予習】地域課題へ関心を向けると共に、疑問点を調べる。 概ね1時間程度</p> <p>【復習】日常生活で目にする様々と地域課題とを結びつけ考察する。 概ね2時間程度</p>		
評価方法	授業内課題50%、最終課題50%		
履修条件	なし		
教科書	なし 必要に応じて授業内で資料を配布する		
参考書			

科目名	人間知能と人工知能 Human Intelligence and Artificial Intelligence	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（2年後期）	科目区分	講義
担当者	未定	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標			
授業概要			
授業計画			
予復習等			
評価方法			
履修条件			
教科書			
参考書			